

最近の雇用失業情勢(30年6月分)

ハローワーク上越

1 求人・求職の状況(新規学卒者を除き、パートを含む全数)

- ① 求人： 前年同月比で新規求人は3.6%増加し、有効求人は6.1%増加（22ヶ月連続）した。
 - ② 求職： 前年同月比で新規求職者は2.1%減少し、有効求職者は3.5%減少（46ヶ月連続）した。
 - ③ 求人倍率： 新規求人倍率は前年同月より0.12ポイント上昇し、有効求人倍率は前年同月より0.14ポイント上昇した。
- (注) 新潟県求人倍率は季節調整済みの数値。

	新 規						有 効					
	求 人		求 職		新規求人倍率		求 人		求 職		有効求人倍率	
	人	前年同月比 %	人	前年同月比 %	上越所 倍	新潟県 倍	人	前年同月比 %	人	前年同月比 %	上越所 倍	新潟県 倍
26年度	20,705	▲ 5.3	15,454	▲ 2.2	1.34	1.63	52,897	▲ 6.5	55,098	▲ 3.0	0.96	1.17
27年度	19,825	▲ 4.3	14,522	▲ 6.0	1.37	1.68	51,847	▲ 2.0	51,149	▲ 7.2	1.01	1.22
28年度	20,472	3.3	13,507	▲ 7.0	1.52	1.86	52,901	2.0	48,063	▲ 6.0	1.10	1.35
29年度	22,488	9.8	11,985	▲ 11.3	1.88	2.15	59,888	13.2	43,744	▲ 9.0	1.37	1.56
29年 6月	1,973	18.2	931	▲ 13.2	2.12	2.04	4,846	14.6	3,687	▲ 9.8	1.31	1.51
7月	1,535	▲ 5.5	837	▲ 9.8	1.83	2.02	4,668	8.2	3,518	▲ 8.0	1.33	1.51
8月	1,943	30.3	885	▲ 9.6	2.20	2.09	4,893	16.9	3,481	▲ 7.6	1.41	1.51
9月	1,982	6.3	966	▲ 22.0	2.05	2.09	5,003	13.0	3,524	▲ 11.1	1.42	1.53
10月	1,931	7.1	966	▲ 6.1	2.00	2.12	5,319	17.9	3,589	▲ 8.5	1.48	1.54
11月	1,815	11.2	929	▲ 6.7	1.95	2.18	5,112	11.0	3,519	▲ 8.0	1.45	1.57
12月	1,749	17.5	889	▲ 12.2	1.97	2.17	4,894	14.5	3,448	▲ 9.2	1.42	1.58
30年 1月	1,972	13.0	1,087	▲ 12.1	1.81	2.39	5,063	15.6	3,494	▲ 10.4	1.45	1.66
2月	1,924	3.2	962	▲ 21.9	2.00	2.36	5,123	13.1	3,499	▲ 12.7	1.46	1.68
3月	2,200	7.8	1,223	▲ 4.6	1.80	2.23	5,445	11.2	3,787	▲ 8.6	1.44	1.71
4月	1,885	13.0	1,304	0.6	1.45	2.25	5,253	12.3	3,912	▲ 7.3	1.34	1.70
5月	1,688	▲ 6.0	981	▲ 3.3	1.72	2.27	5,158	6.5	3,852	▲ 3.2	1.34	1.70
6月	2,045	3.6	911	▲ 2.1	2.24	2.25	5,142	6.1	3,558	▲ 3.5	1.45	1.72

2 求人・求職の状況(パートを除く常用)

- ① 求人： 前年同月比で新規求人は6.8%増加し、有効求人は3.6%増加した。
- ② 求職： 前年同月比で新規求職者は7.5%減少し、有効求職者は6.8%減少した。
- ③ 求人倍率： 新規求人倍率は前年同月より0.28ポイント上昇し、有効求人倍率は前年同月より0.14ポイント上昇した。

	新 規					有 効				
	求 人		求 職		新規求人倍率	求 人		求 職		有効求人倍率
	人	前年同月比 %	人	前年同月比 %		人	前年同月比 %	人	前年同月比 %	
26年度	10,800	▲ 7.2	9,696	▲ 2.1	1.11	28,176	▲ 9.7	35,164	▲ 2.9	0.80
27年度	10,984	1.7	8,954	▲ 7.7	1.23	29,301	4.0	31,858	▲ 9.4	0.92
28年度	11,338	3.2	8,069	▲ 9.9	1.41	29,930	2.1	28,912	▲ 9.2	1.04
29年度	12,506	10.3	7,199	▲ 10.8	1.74	34,177	14.2	26,039	▲ 9.9	1.31
29年 6月	1,131	20.6	612	▲ 13.2	1.85	2,894	19.7	2,263	▲ 9.5	1.28
7月	854	▲ 14.9	533	▲ 7.1	1.60	2,784	9.2	2,188	▲ 8.0	1.27
8月	1,089	31.2	576	▲ 12.3	1.89	2,823	12.9	2,144	▲ 9.4	1.32
9月	1,099	13.5	583	▲ 22.1	1.89	2,814	9.9	2,143	▲ 11.5	1.31
10月	1,022	3.7	605	▲ 4.3	1.69	2,970	19.1	2,160	▲ 9.3	1.38
11月	1,055	19.1	514	▲ 7.6	2.05	2,856	14.3	2,042	▲ 9.2	1.40
12月	962	16.9	477	▲ 13.7	2.02	2,761	16.8	1,944	▲ 10.2	1.42
30年 1月	1,045	16.8	594	▲ 12.8	1.76	2,837	19.9	1,960	▲ 11.6	1.45
2月	1,004	▲ 6.1	605	▲ 19.7	1.66	2,753	8.1	2,073	▲ 13.4	1.33
3月	1,203	5.9	732	▲ 3.6	1.64	3,008	7.8	2,281	▲ 8.7	1.32
4月	1,067	16.5	700	▲ 4.8	1.52	2,992	8.8	2,270	▲ 8.5	1.32
5月	919	▲ 18.4	610	▲ 3.6	1.51	2,969	1.4	2,244	▲ 4.9	1.32
6月	1,208	6.8	566	▲ 7.5	2.13	2,998	3.6	2,108	▲ 6.8	1.42

3 求人・求職の状況(パート)

- ① 求 人： 前年同月比で新規求人は5.7%増加し、有効求人は13.2%増加した。
 ② 求 職： 前年同月比で新規求職者は7.3%増加し、有効求職者は2.7%増加した。
 ③ 求人倍率： 新規求人倍率は前年同月より0.03ポイント低下し、有効求人倍率は前年同月より0.13ポイント上昇した。

	新 規					有 効				
	求 人	前 年 同 月 比	求 職	前 年 同 月 比	新規求 人倍率	求 人	前 年 同 月 比	求 職	前 年 同 月 比	有効求 人倍率
	人	%	人	%	倍	人	%	人	%	倍
26年度	8,790	▲ 5.6	5,034	▲ 1.9	1.75	22,002	▲ 5.1	18,470	▲ 3.0	1.19
27年度	7,964	▲ 9.4	4,954	▲ 1.6	1.61	20,231	▲ 8.0	18,067	▲ 2.2	1.12
28年度	8,196	2.9	4,844	▲ 2.2	1.69	20,486	1.3	17,966	▲ 0.6	1.14
29年度	8,890	8.5	4,225	▲ 12.8	2.10	22,777	11.2	16,588	▲ 7.7	1.37
29年 6月	715	6.4	316	▲ 13.7	2.26	1,747	4.9	1,393	▲ 11.4	1.25
7月	606	1.8	304	▲ 13.1	1.99	1,657	0.5	1,327	▲ 8.0	1.25
8月	757	24.1	308	▲ 4.0	2.46	1,805	15.3	1,336	▲ 4.4	1.35
9月	721	▲ 3.4	383	▲ 22.0	1.88	1,882	14.2	1,380	▲ 10.5	1.36
10月	794	10.7	357	▲ 9.6	2.22	2,024	15.9	1,424	▲ 7.4	1.42
11月	718	9.3	302	▲ 14.7	2.38	1,982	10.4	1,361	▲ 8.7	1.46
12月	641	17.6	214	▲ 14.7	3.00	1,864	14.3	1,193	▲ 11.1	1.56
30年 1月	889	12.5	346	▲ 3.6	2.57	2,013	14.8	1,188	▲ 7.0	1.69
2月	835	15.3	336	▲ 25.8	2.49	2,116	20.6	1,257	▲ 10.3	1.68
3月	887	11.2	456	▲ 8.6	1.95	2,193	16.4	1,448	▲ 9.2	1.51
4月	786	11.8	584	6.2	1.35	2,056	16.9	1,585	▲ 6.8	1.30
5月	708	13.5	357	1.1	1.98	2,004	15.5	1,572	▲ 0.6	1.27
6月	756	5.7	339	7.3	2.23	1,978	13.2	1,430	2.7	1.38

4 就職の状況(新規学卒者を除き、パートを含む全数・パートを除く常用・パート)

- ① 就 職： 全数の就職件数は、前年同月比で6.2%減少した。
 常用の就職件数は、前年同月比で7.8%減少した。
 パートの就職件数は、前年同月比で2.6%減少した。
 ② 就職率： 全数の就職率は45.1%で、前年同月(47.0%)より1.9ポイント低下した。
 常用の就職率は37.8%で、前年同月(37.9%)より0.1ポイント低下した。
 パートの就職率は56.0%で、前年同月(61.7%)より5.7ポイント低下した。

	全 数				常 用				パ ー ト			
	就 職	前 年 同 月 比	就職率	前 年 同 月 差	就 職	前 年 同 月 比	就職率	前 年 同 月 差	就 職	前 年 同 月 比	就職率	前 年 同 月 差
	人	%	%	ポイント	人	%	%	ポイント	人	%	%	ポイント
26年度	6,185	▲ 2.6	40.0	▲ 0.2	3,203	▲ 2.8	33.0	▲ 0.3	2,711	▲ 3.7	53.9	▲ 0.9
27年度	5,959	▲ 3.7	41.0	1.0	3,179	▲ 0.7	35.5	2.5	2,574	▲ 5.1	52.0	▲ 1.9
28年度	5,850	▲ 1.8	43.3	2.3	3,081	▲ 3.1	38.2	2.7	2,582	0.3	53.3	1.3
29年度	5,082	▲ 13.1	42.4	▲ 0.9	2,777	▲ 9.9	38.6	0.4	2,167	▲ 16.1	51.3	▲ 2.0
29年 6月	438	▲ 13.4	47.0	▲ 0.2	232	▲ 4.1	37.9	3.6	195	▲ 22.6	61.7	▲ 7.2
7月	379	▲ 13.7	45.3	▲ 2.0	232	▲ 13.4	43.5	▲ 3.2	135	▲ 15.1	44.4	▲ 1.0
8月	385	▲ 1.5	43.5	3.6	226	4.1	39.2	6.2	151	▲ 9.0	49.0	▲ 2.7
9月	435	▲ 15.4	45.0	3.5	217	▲ 25.7	37.2	▲ 1.8	193	▲ 4.0	50.4	9.5
10月	429	▲ 14.9	44.4	▲ 4.6	261	▲ 6.1	43.1	▲ 0.9	163	▲ 24.5	45.7	▲ 9.0
11月	397	▲ 6.8	42.7	▲ 0.1	203	▲ 9.8	39.5	▲ 1.0	184	1.7	60.9	9.8
12月	364	▲ 6.2	40.9	2.6	199	5.9	41.7	7.7	153	▲ 16.4	71.5	▲ 1.4
30年 1月	284	▲ 20.0	26.1	▲ 2.6	159	▲ 9.7	26.8	1.0	113	▲ 31.5	32.7	▲ 13.3
2月	364	▲ 29.3	37.8	▲ 4.0	200	▲ 33.1	33.1	▲ 6.6	156	▲ 24.6	46.4	0.7
3月	593	▲ 8.6	48.5	▲ 2.1	309	0.0	42.2	1.5	267	▲ 15.8	58.6	▲ 4.9
4月	526	▲ 2.8	40.3	▲ 1.4	260	▲ 4.1	37.1	0.2	250	▲ 4.9	42.8	▲ 5.0
5月	484	2.3	49.3	2.7	244	▲ 9.0	40.0	▲ 2.3	225	16.0	63.0	8.0
6月	411	▲ 6.2	45.1	▲ 1.9	214	▲ 7.8	37.8	▲ 0.1	190	▲ 2.6	56.0	▲ 5.7

※ 就職率は、新規求職者に対する就職率である。

5 新規求人の主要産業別状況

① 常用

建設業、生活関連サービス業、娯楽業で減少したが、製造業、運輸業・郵便業、宿泊業、飲食サービス業、医療、福祉、サービス業、公務・その他で増加し、全体でも増加した。

製造業では、食料品・飲料、はん用・生産用・業務用機械器具で減少したが、電子部品・デバイス・電子回路、その他の製造で増加し、全体でも増加した。

② パート

建設業、製造業、生活関連サービス業、娯楽業、医療、福祉で減少したが、運輸業・郵便業、卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業、サービス業、公務・その他で増加し、全体でも増加した。

産業・規模	雇用形態	産業分類番号	①全数		②常用		③パート		④臨時	
			(②+③+④)	前年比(%)		前年比(%)		前年比(%)		前年比(%)
農・林・漁業		(01~04)	8	▲ 63.6	7	▲ 46.2	1	▲ 85.7	0	▲ 100.0
鉱業、採石業、砂利採取業		(05)	9	125.0	9	125.0	0	-	0	-
建設業		(06~08)	343	▲ 9.3	326	▲ 6.9	17	▲ 39.3	0	-
製造業		(09~32)	320	3.9	235	34.3	42	▲ 50.0	43	▲ 12.2
食料品・飲料		(09、10)	38	▲ 50.0	17	▲ 26.1	21	▲ 60.4	0	-
繊維		(11)	12	71.4	7	16.7	5	400.0	0	-
木材・家具		(12、13)	2	▲ 33.3	2	▲ 33.3	0	-	0	-
化学工業		(16)	9	▲ 10.0	9	▲ 10.0	0	-	0	-
プラスチック製品		(18)	4	▲ 20.0	4	0.0	0	▲ 100.0	0	-
窯業・土石製品		(21)	1	▲ 88.9	1	▲ 80.0	0	▲ 100.0	0	▲ 100.0
鉄鋼業		(22)	9	50.0	9	50.0	0	-	0	-
金属製品		(24)	38	5.6	18	▲ 18.2	0	▲ 100.0	20	66.7
はん用・生産用・業務用機械器具		(25~27)	19	▲ 45.7	18	▲ 33.3	1	0.0	0	▲ 100.0
電子部品・デバイス・電子回路		(28)	138	263.2	127	262.9	10	400.0	1	0.0
電気機械器具		(29)	26	▲ 33.3	0	▲ 100.0	4	▲ 66.7	22	10.0
情報通信用機械器具		(30)	4	0.0	4	33.3	0	▲ 100.0	0	-
輸送用機械器具		(31)	11	▲ 59.3	10	▲ 37.5	1	▲ 75.0	0	▲ 100.0
その他の製造			9	▲ 60.9	28	55.6	0	▲ 100.0	0	▲ 100.0
電気・ガス・熱供給・水道業		(33~36)	0	▲ 100.0	0	-	0	▲ 100.0	0	-
情報通信業		(37~41)	4	▲ 87.5	3	▲ 88.5	1	▲ 83.3	0	-
運輸業・郵便業		(42~49)	69	11.3	57	16.3	12	9.1	0	▲ 100.0
卸売・小売業		(50~61)	276	9.5	86	0.0	190	15.9	0	▲ 100.0
金融業・保険業		(62~67)	8	▲ 42.9	8	700.0	0	▲ 100.0	0	▲ 100.0
不動産業・物品賃貸業		(68~70)	34	100.0	22	100.0	12	140.0	0	▲ 100.0
学術研究、専門・技術サービス業		(71~74)	40	81.8	29	70.6	11	266.7	0	▲ 100.0
宿泊業、飲食サービス業		(75~77)	195	30.0	75	59.6	120	22.4	0	▲ 100.0
生活関連サービス業、娯楽業		(78~80)	67	▲ 58.9	37	▲ 58.9	30	▲ 58.9	0	-
教育、学習支援業		(81、82)	16	33.3	3	▲ 50.0	11	175.0	2	0.0
医療、福祉		(83~85)	319	7.8	181	20.7	136	▲ 1.4	2	▲ 75.0
複合サービス事業		(86、87)	57	50.0	7	▲ 36.4	46	100.0	4	0.0
サービス業		(88~96)	239	32.0	94	9.3	116	141.7	29	▲ 38.3
公務・その他		(97~99)	41	115.8	29	222.2	11	10.0	1	-
合計			2,045	3.6	1,208	6.8	756	5.7	81	▲ 36.2
規模別	29人以下		1,208	2.2	687	▲ 0.6	483	9.5	38	▲ 24.0
	30~99		455	▲ 12.0	266	▲ 16.6	178	1.7	11	▲ 52.2
	100~299		240	12.1	123	36.7	95	3.3	22	▲ 31.3
	300~499		22	▲ 51.1	12	▲ 40.0	0	▲ 100.0	10	▲ 52.4
	500~999		120	700.0	120	990.9	0	▲ 100.0	0	▲ 100.0
	1000人以上		0	-	0	-	0	-	0	-

6 新規求職者の態様別状況(パートを含む常用)

前年同月比では、在職者が増加したが、離職者、無業者で減少し、全体でも減少した。

離職者では、自営・その他が増加したが、定年、事業主都合、自己都合が減少したため、全体でも減少した。

	30年 6月	構成比 (%)	前年 同月比	29年 6月	構成比 (%)
合計	905	100	▲ 2.3	926	100
在職者	369	40.8	9.5	337	36.4
離職者	450	49.7	▲ 7.6	487	52.6
定年	22	(2.4)	▲ 33.3	33	(3.6)
事業主都合	89	(9.8)	▲ 7.3	96	(10.4)
自己都合	327	(36.1)	▲ 6.3	349	(37.7)
自営・その他	10	(1.1)	11.1	9	(1.0)
無業者	86	9.5	▲ 15.7	102	11.0

※1「離職者」の内訳の中に「離職理由不明」があるため

「離職者」の合計が一致しない場合がある

※2「事業主都合」の内訳の中に「契約期間満了」が含まれる

7 企業整備状況(1件5人以上)

	件数	前年 同月比		離職 者数	前年 同月比	
		件	%		人	%
25年度	20	▲ 25.9		211	▲ 38.8	
26年度	17	▲ 15.0		407	92.9	
27年度	21	▲ 23.5		201	▲ 50.6	
28年度	13	▲ 38.1		302	50.2	
29年度	11	▲ 15.4		74	▲ 75.5	
29年 6月	0	-		0	-	
7月	1	-		5	-	
8月	1	0.0		13	116.7	
9月	0	-		0	-	
10月	1	-		7	-	
11月	1	-		12	-	
12月	1	0.0		5	▲ 73.7	
30年 1月	1	-		5	-	
2月	3	200.0		17	142.9	
3月	0	-		0	-	
4月	4	-		33	-	
5月	2	0.0		39	290.0	
6月	1	-		5	-	
4月～ 当月計	7	250.0		77	670.0	
前年同期	2	*		10	*	

8 雇用保険適用事業所・被保険者状況

	適用事業所数		新規 適用	廃止 事業所	被保険者数		資格 取得	資格 喪失
	前年比	%			人	%		
24年度	4,224	0.1	143	151	60,173	▲ 0.5	10,203	10,280
25年度	4,205	▲ 0.4	149	167	60,163	▲ 0.0	9,478	9,376
26年度	4,179	▲ 0.6	136	161	59,635	▲ 0.9	9,808	9,353
27年度	4,158	▲ 0.5	117	139	59,919	0.5	9,753	9,420
28年度	4,115	▲ 1.0	131	174	60,233	0.5	9,579	9,029
29年 6月	4,107	▲ 0.3	6	9	61,546	1.0	704	601
7月	4,110	▲ 0.4	12	7	61,562	1.3	607	561
8月	4,111	▲ 0.3	7	6	61,551	1.3	518	538
9月	4,089	▲ 0.4	8	30	61,584	1.6	558	520
10月	4,098	▲ 0.5	9	1	61,636	1.7	638	599
11月	4,105	▲ 0.3	10	3	61,574	1.9	556	627
12月	4,106	▲ 0.2	5	4	61,376	2.1	499	699
30年 1月	4,107	▲ 0.1	10	9	61,056	1.9	503	832
2月	4,103	▲ 0.3	6	10	61,176	2.0	548	442
3月	4,087	▲ 0.7	8	24	61,167	1.6	704	710
4月	4,090	▲ 0.6	26	23	61,535	1.6	1,922	1,664
5月	4,096	▲ 0.3	17	11	62,155	1.3	1,334	718
6月	4,101	▲ 0.1	13	9	62,308	1.2	788	631

※ 年度の適用事業所数及び被保険者数は3月末現在の数値である。

9 雇用保険受給状況(基本手当)

	受給資格決定件数		受給者実人員	
	前年比	%	人	%
24年度	3,822	▲ 2.7	15,853	6.5
25年度	3,252	▲ 14.9	12,232	▲ 22.8
26年度	3,145	▲ 3.3	11,542	▲ 5.6
27年度	2,928	▲ 6.9	9,365	▲ 18.9
28年度	2,785	▲ 4.9	8,696	▲ 7.1
29年 6月	192	▲ 12.7	757	▲ 5.1
7月	189	▲ 6.0	760	0.9
8月	162	▲ 13.8	736	▲ 6.5
9月	186	▲ 41.1	689	▲ 11.1
10月	198	▲ 5.3	641	▲ 21.6
11月	174	▲ 7.9	582	▲ 19.8
12月	146	▲ 8.2	594	▲ 14.8
30年 1月	210	▲ 8.3	578	▲ 13.3
2月	162	▲ 9.0	597	▲ 7.0
3月	216	▲ 6.5	558	▲ 15.8
4月	422	8.2	548	▲ 19.5
5月	253	▲ 5.9	717	▲ 1.2
6月	190	▲ 1.0	703	▲ 7.1

最近の雇用の動き

上越公共職業安定所

平成30年6月の雇用失業情勢

1. 有効求人倍率

◇ 全数

	当月値	前年同月差	前月値
上越	1.45倍	0.14P↑	1.34倍
新潟県	1.72倍	0.21P↑	1.70倍
全国	1.62倍	0.12P↑	1.60倍

*安定所別の最高は南魚沼所の2.24倍、最低は新発田所の1.16倍
*新潟県及び全国の求人倍率は季節調整値

◇ 常用

	当月値	前年同月差	前月値
上越	1.42倍	0.14P↑	1.32倍
新潟県	1.57倍	0.28P↑	1.49倍
全国	1.36倍	0.15P↑	1.30倍

◇ 全国の完全失業率(季節調整値)
4月2.5% 5月2.2% 6月2.4%

2. 求人の状況

◇ 全数

	当月値	前年同月比	前月値
新規	2,045	3.6%↑	1,688
有効	5,142	6.1%↑	5,158

◇ 常用

新規	1,208	6.8%↑	919
有効	2,998	3.6%↑	2,969

◇ 常用パート

新規	634	5.5%↑	595
有効	1,723	17.9%↑	1,787

・新規求人(常用)は、「建設業」、「生活関連サービス業、娯楽業」で減少したが、「製造業」、「運輸業、郵便業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「医療、福祉」、「サービス業」で増加し、前年同月と比べて77件(6.8%)増加した。

3. 求職の状況

◇ 全数

	当月値	前年同月比	前月値
新規	911	2.1%↓	981
有効	3,558	3.5%↓	3,852

◇ 常用

新規	566	7.5%↓	610
有効	2,108	6.8%↓	2,244

◇ 常用パート

新規	339	8.0%↑	356
有効	1,426	3.0%↑	1,568

・新規求職者(常用)の態様別では、「在職者」は増加したが、「離職者」、「無業者」が減少し、前年同月と比べて46人(7.5%)減少した。
・離職者の内訳では、定年、事業主都合、自己都合の項目で減少、自営・その他の項目で増加した。

4. 就職の状況

◇ 全数

	当月値	前年同月比	前月値
当月	411	6.2%↓	484
累計	1,421	2.1%↓	

◇ 常用

当月	214	7.8%↓	244
累計	718	6.9%↓	

◇ 常用パート

当月	158	0.6%↑	182
累計	552	1.8%↑	

・常用では、「運輸業、郵便業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「医療、福祉」、「サービス業」で増加したが、「建設業」、「製造業」、「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」で減少し、前年度と比べて18件(7.8%)減少した。

5. 雇用保険受給者等の状況

◇ 受給資格決定件数

当月値	前年同月比	前月値
190	1.0%↓	253

◇ 受給者実人員

	703	7.1%↓	717
支給金額(単位:千円)	77,223	12.5%↓	81,903

◇ 高年齢雇用継続給付(受給者実人員)

1,225	5.3%↓	1,084
-------	-------	-------

◇ 育児休業給付(受給者実人員)

375	9.3%↑	502
-----	-------	-----

6. 平成31年3月高等学校卒業予定者の就職希望状況

◇ 卒業予定者数及び就職希望者数

卒業予定者	計	1,994(52↓)		1,002(46↓)		992(6↓)	
		男	女	男	女	男	女
就職希望者	493(23↑)	312(17↑)	181(6↑)				

()内は前年との増減
*就職希望者のうち、県外希望者は48人(男28人、女20人)

◇ 職業別就職希望者数

	本年	前年	増減
専門・技術	42	30	12
事務	43	30	13
販売	41	62	-21
サービス	57	58	-1
技能・製造	182	153	29
建築・建設	22	22	0
その他	30	32	-2
未定	76	83	-7
合計	493	470	23

◇ 求人受理状況(6月末現在)

	本年	前年同月	増減比
管内	951	812	17.1%↑
他管内	0	0	-
県外	0	0	-
合計	951	812	17.1%↑

毎年、5月に各高等学校で実施している「進路希望調査」の集計結果による

7. 企業整備の状況(1件5人以上)

	件数	解雇者数
当月	1	5
累計	7	77

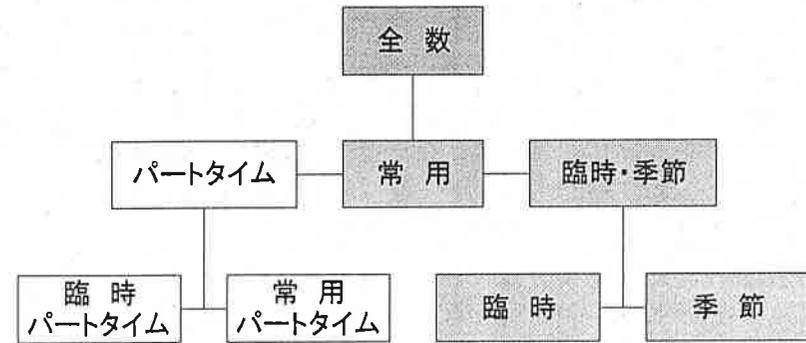
8. 障害者職業紹介状況

	新規求職申込件数	就職件数	有効中の者
当月	35	15	484
累計	112	108	

障害者は、身体・知的・精神(発達・難病等を含む。)

用語の説明

- 全 数 → 雇用形態を問わず全てのもの
「常用」＋「パートタイム」＋「臨時・季節」
- 常 用 → 雇用期間の定めが無いもの、又は雇用期間が4か月以上のもの
- パートタイム → その事業所の通常の労働者より週の所定労働時間が短い労働者
- 臨 時 → 雇用期間が1か月以上、4か月未満のもの
- 季 節 → 季節的な労働需要に対して、一定の期間(4か月以上・未満は問わず)を定めて就労するもの
- 新規求人数(求職者数) → 当月に新たに申込みされた求人数(求職申込者数)
- 有効求人数(求職者数) → 「前月から繰越された求人数(求職者数)」＋「当月の新規求人数(求職者数)」
- 季節調整値 → 例えば、農業・林業の就業者が春から夏にかけて増加し、秋以降減少していくなど季節的な要因で毎年同じような動きをするものがあり、これを「季節変動」といいます。
「季節調整値」は、原数値(実際の数値)から季節変動を除去した数値をいいます。
- 有効求人倍率 → 一人当たりの求職登録者に何件の求人があるかを示す指標
「有効求人数／有効求職者数 = 有効求人倍率」
- 雇用保険受給資格決定件数 → 当月に雇用保険失業給付の受給手続きを行った件数
- 雇用保険受給者実人員 → 当月に雇用保険失業給付の支給を受けた人数



産業分類名	具体的な産業
生活関連サービス業・娯楽業	クリーニング業、理容業、美容業、冠婚葬祭業、映画館、ゴルフ場、パチンコ店、ボウリング場、スキー場(スポーツ施設提供業)など
教育・学習支援業	大学、専門学校、高等学校、中学校、小学校、幼稚園、学習塾、職業訓練施設 など
サービス業 (他に分類されないもの)	廃棄物処理業、自動車修理業、職業紹介事業、労働者派遣業、警備業、ビルメンテナンス業など



小企業の景況等

2018年8月9日



日本政策金融公庫

高田支店 国民生活事業

図 5-1 小企業の景況等 (単位: 千円)

○ 小企業向け融資の残高 (千円)

△ 小企業向け融資の償還 (千円)

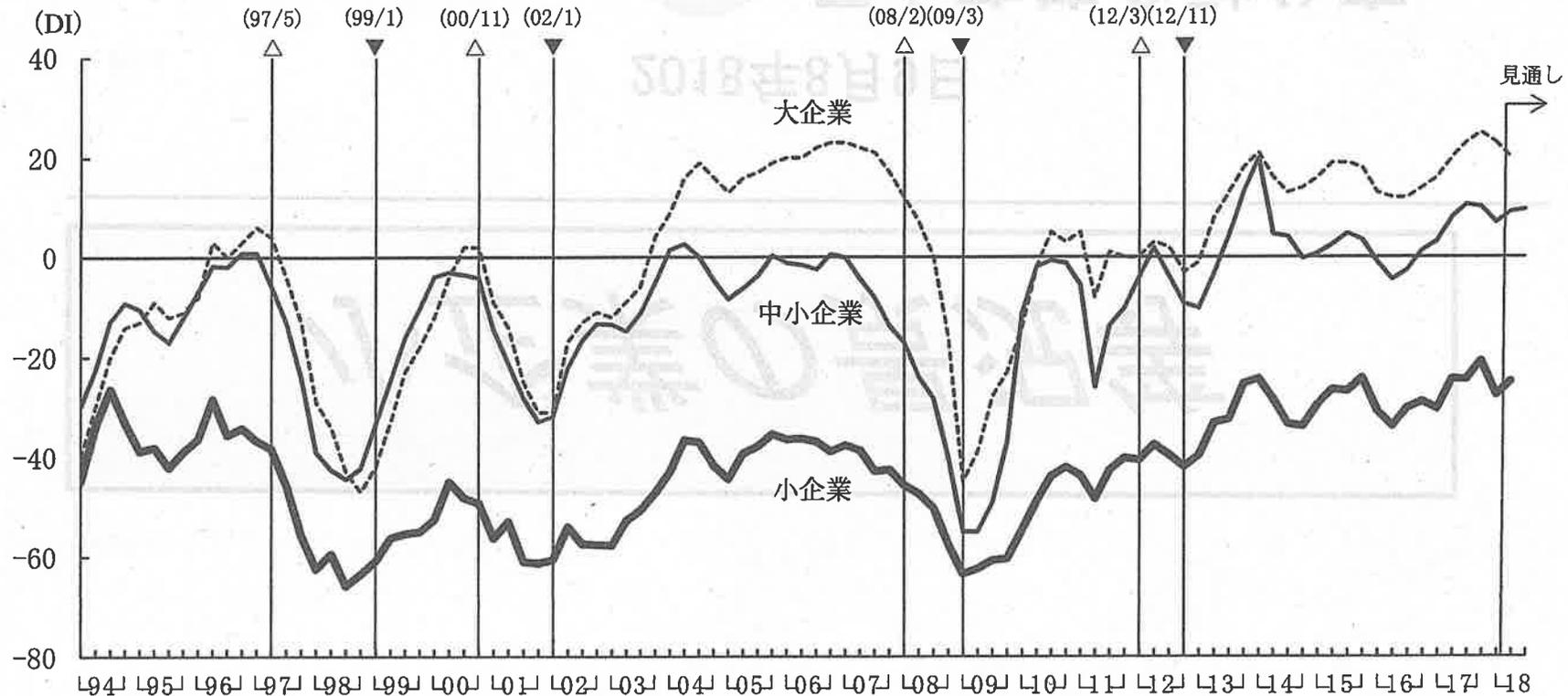
◇ 小企業向け融資の償還率 (%)

◇ 小企業向け融資の償還率 (%)

◇ 小企業の景況は持ち直しの動き

- 2018年1-3月期の業況判断DIは、前期からマイナス幅が拡大し、▲27.6となった。
- 小企業の景況は、持ち直しの動きがみられる。

図2-1 業況判断DIの推移



資料：日本政策金融公庫「全国中小企業動向調査」、日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

(年/四半期)

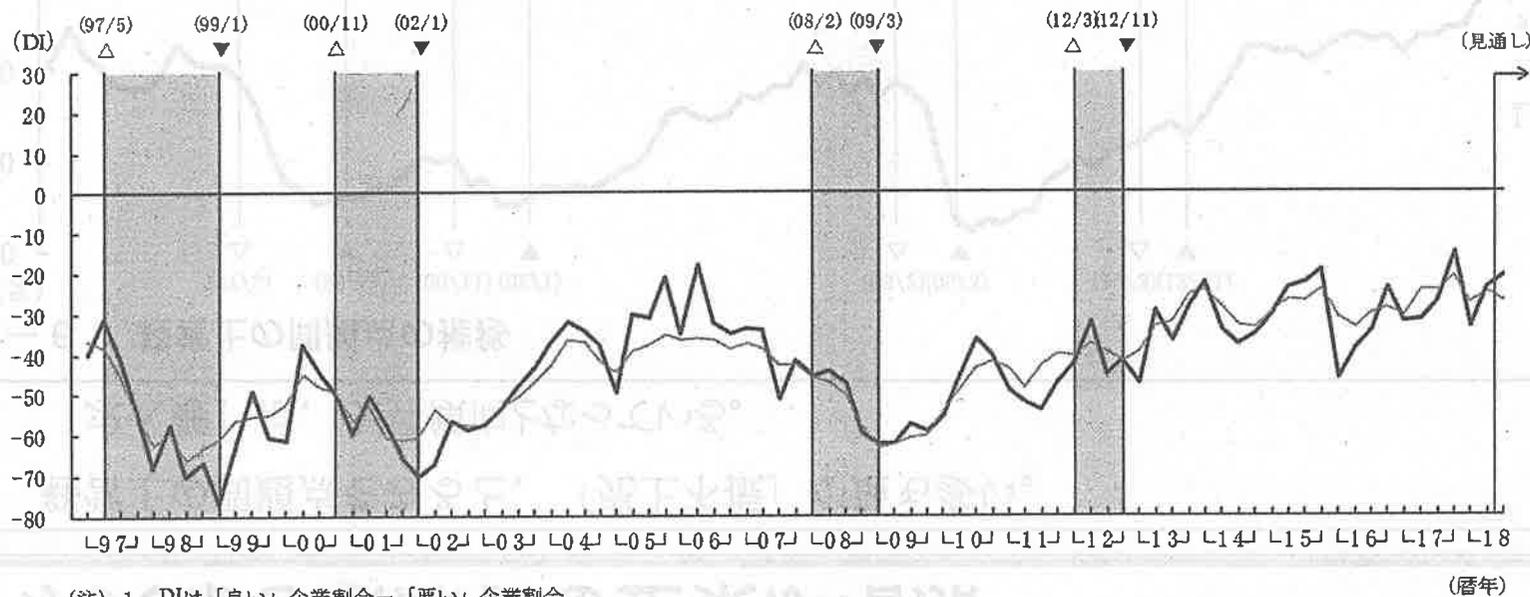
- (注) 1 「良い」企業割合-「悪い」企業割合 (大企業、小企業)。
 2 前年同期比で「好転」企業割合-「悪化」企業割合 (中小企業、季節調整値)。
 3 中小企業については、2期先 (~2018年7-9月期) までの見通しを調査している。
 4 △は景気の山、▼は景気の谷、() 内は、その年月を表す。以下、同じ。

業況判断（新潟県、小企業）

- 今期の業況判断DI（全業種計）は、前回調査（2018年1-3月期）と比べ9.6ポイント改善し、▲23.7となった。来期はマイナス幅が縮小する見通しとなっている。
- 業種別にみると、卸売業と建設業を除いて改善した。

図-1-1 業況判断DIの推移（全業種計）

	17.4-6	17.7-9	17.10-12	18.1-3	18.4-6	18.7-9
新潟県	▲ 31.6	▲ 27.3	▲ 14.8	▲ 33.3	▲ 23.7	▲ 20.9
(参考) 全国	▲ 24.4	▲ 24.5	▲ 20.8	▲ 27.6	▲ 24.9	▲ 27.0

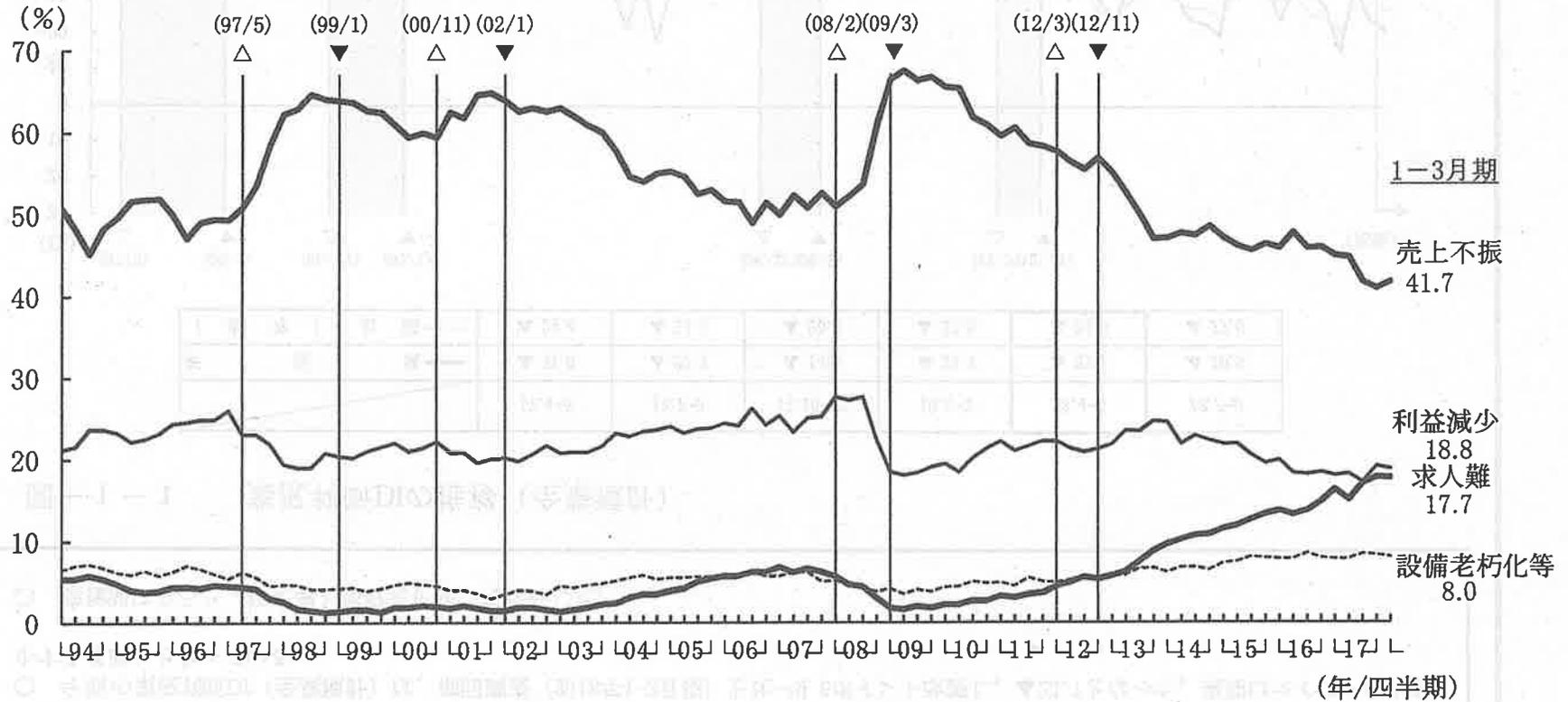


- (注) 1 DIは「良い」企業割合－「悪い」企業割合。
 2 斜体は見通しの値を示している（以下同じ）。
 3 Δは景気の山、▼は景気の谷、シャドー部分は景気後退期を示す（以下同じ）。

◇ 求人難を懸念する企業が増加

- 経営上の問題点をみると、「売上不振」が最も多い。
- 「求人難」は、上昇傾向となっている。

図2-6 経営上の問題点の推移



資料：日本政策金融公庫「全国中小企業動向調査（小企業編）」

(注) 当面の経営上の問題点について択一式で回答を求め、上位4位までを示したものの。

業況感は概ね横ばいで推移 先行きは仕入価格や人件費の上昇が懸念材料

新潟県 企業動向調査

2018年上期



1 業況感

(1) 全産業

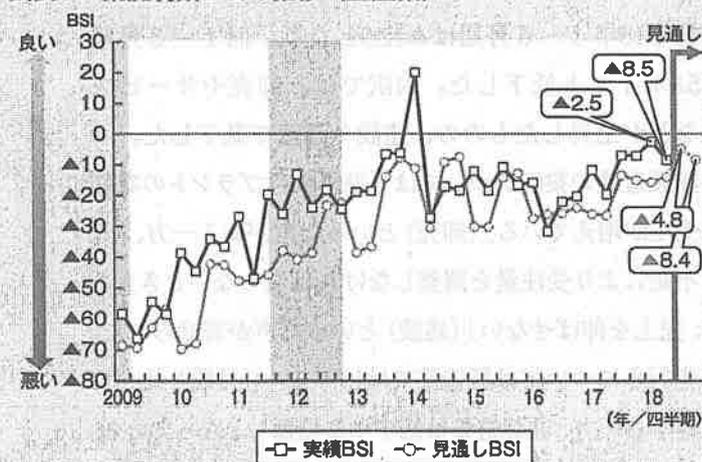
—足元、先行きとも業況感は、横ばいで推移—

2018年1-3月期における県内企業の業況判断BSI^(※)は▲2.5となった。海外需要が堅調であるほか、東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い首都圏で建設需要が増加したため、17年10-12月期の▲7.1から4.6ポイント上昇し、県内企業の業況感は改善した(図表1)。

続く、18年4-6月期(含む実績見込み)は▲8.5となり、同1-3月期比で▲6.0ポイントと低下したものの、基調としては17年7-9月期以降、概ね横ばい圏内で推移している。

先行きを示す見通しBSIは、18年7-9月期が▲4.8、続く同10-12月期は▲8.4と、同4-6月期の実績見込みに比べ、ほぼ横ばいで推移する見通しとなっている。

図表1 業況判断BSIの推移(全産業)



(注) グレー部分は、新潟県「景気動向指数」による景気後退期

(※) BSI(ビジネス・サーベイ・インデックス)とは、アンケートの回答結果を指数化したものである。本稿でのBSIとは、業況あるいは先行きの見通しなどが「良い」か「悪い」かという質問に対して「プラス(良い、増加等)」「普通(不変等)」「マイナス(悪い、減少等)」の3つの選択肢を用意して、「プラス」と回答した企業の割合から「マイナス」と回答した企業の割合を差し引いた数値のことをいう。

(2) 業種別

業況判断BSIを業種別にみると、製造業は18年1-3月期が3.8となり、17年10-12月期比0.7ポイント上昇し、3四半期連続で「良い」超となった(図表2)。

続く18年4-6月期は▲2.4となり、同1-3月期比6.2ポイント低下した。内訳をみると、食料品や窯業・土石、一般機械といった業種で上昇したものの、木材・木製品や輸送機械、繊維などで低下した。

なお、最近の業況などに関して自由回答形式で尋ねたところ、製造業からは「受注数量の増加と効率化による改善の結果、業績が好転している」（窯業・土石）、「オリンピック関連の本格的な着工開始や設備投資の増加により、需要は堅調である」（一般機械）、「海外向けの売上が増加している」（電気機械）といった声がある一方、「工場全体の稼働を落としている」（繊維）、「人手不足や原材料入荷の遅れ、受注先自体の生産能力オーバーに伴う受注のキャンセルが響き、業績は上向いていない」（その他製造）といった声が聞かれた。

非製造業は18年1-3月期が▲7.1となり、17年10-12月期比7.3ポイント上昇した。

続く18年4-6月期は▲12.9となり、同1-3月期比5.8ポイント低下した。内訳では、卸売やサービス他などが上昇したものの、建設や運輸で低下した。

非製造業の業況については「海外向けプラントの案件の受注が増えている」（卸売）といった声がある一方、「人材不足により受注量を調整しなければならないときもあり、売上を伸ばせない」（建設）といった声が寄せられた。

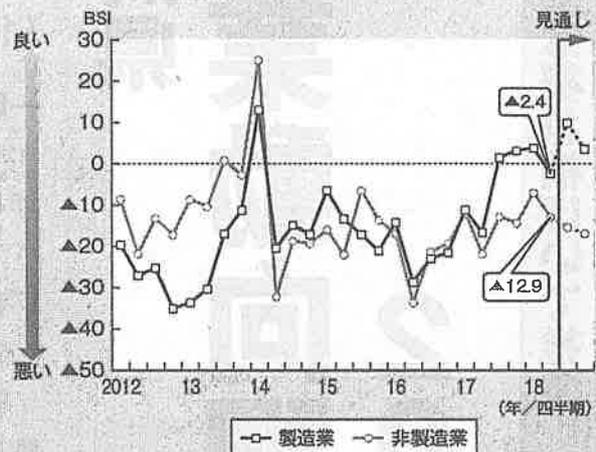
先行きについては製造業では18年4-6月期と比べて上昇する一方、非製造業は低下する見通しとなっている。

(3) 規模別

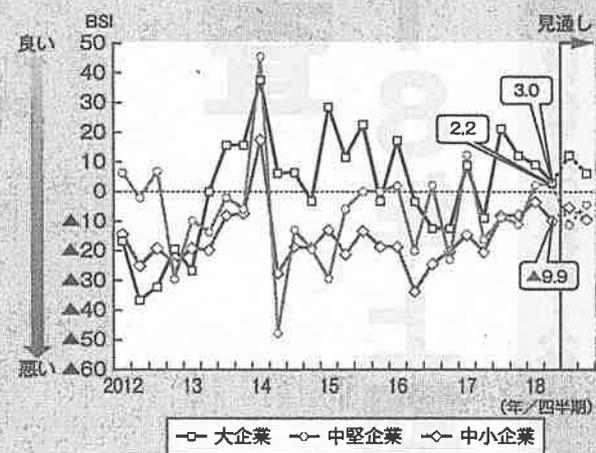
業況判断BSIを規模別にみると、18年1-3月期は大企業が9.1、中堅企業が2.2、中小企業が▲3.5となった。17年10-12月期比では中堅企業や中小企業は上昇したものの、大企業では低下した（図表3）。

続く18年4-6月期は大企業が3.0、中堅企業が2.2、中小企業は▲9.9となった。同1-3月期と比べると、中堅企業は横ばいで推移したものの、大企業や中小企業は低下した。

図表2 業況判断BSIの推移（業種別）



図表3 業況判断BSIの推移（規模別）



先行きは大企業や中小企業でやや上昇するものの、中堅企業では低下する見通しである。

2 生産・売上

—生産・売上は3期ぶりに「減少」超幅が拡大—

18年1-6月期（以下、今期）の生産・売上BSI（「増加」-「減少」）は▲3.8となった（図表4）。17年7-12月期（以下、前期）から15ポイント低下し、3期ぶりに「減少」超幅が拡大した。業種別にみると、製造業は4.2となり前期から6.3ポイント低下した。内訳をみると、木材・木製品、一般機械などが低下した。

また、非製造業は▲9.6となり、前期から18ポイント上昇した。内訳では、小売、運輸などで上昇した。

生産・売上については「消費者の簡便志向の拡大により、調理済みの商品の販売が好調である」（小売）といった声が寄せられる一方、「統廃合などにより受注先が減少し、売上が減っている」（一般機械）といった声が聞かれた。

先行きを示す18年7-12月期（以下、来期）のBSIは▲2.8と今期に比べて1.0ポイント上昇する見通しとなっている。

3 仕入・販売価格

(1) 仕入価格

—3期連続で「上昇」超幅が拡大—

今期の仕入価格BSI（「上昇」-「低下」）は46.0となった（図表5）。前期から7.0ポイント上昇し、3期連続で「上昇」超幅が拡大した。

業種別にみると、製造業は54.9となり前期から10.3ポイント上昇した。内訳をみると、鉄鋼、輸送機械などの業種で上昇した。非製造業は39.6となり、前期を4.6ポイント上回った。内訳では、運輸、小売などで上昇した。

仕入価格については「原油価格が3年ぶりの高値となっており、灯油価格の上昇による悪影響を懸念している」（金属製品）、「燃料価格の高騰で利益が減少している」（運輸）との声があった。

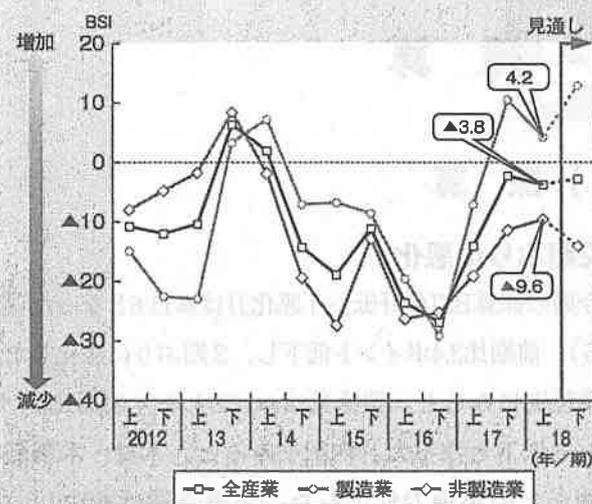
来期のBSIは44.3となり、今期に比べて1.7ポイントの低下と概ね横ばいで推移する見通しとなっている。

(2) 販売価格

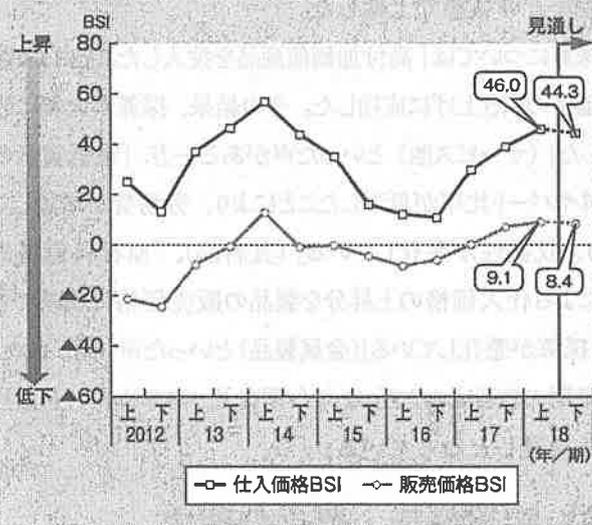
—3期連続で「上昇」超幅が拡大—

今期の販売価格BSI（「上昇」-「低下」）は9.1となった（図表5）。前期から2.1ポイント上昇し、「上昇」超幅が拡大した。

図表4 生産・売上BSIの推移



図表5 仕入価格BSIと販売価格BSIの推移



業種別にみると、製造業が4.9となり前期から4.2ポイント上昇した。また、非製造業も12.1となり前期から0.7ポイント上昇した。

販売価格については「売上が好調な冷凍食品向けの商材は値上げができています」（食料品）、「鋼材や消耗品などの価格上昇により、販売価格も上がっている」（鉄鋼）などの声がある一方、「災害復旧工事や新設・保全工事などの大型案件は価格競争が厳しい」（卸売）といった声が寄せられた。

来期のBSIは8.4となり、今期に比べて0.7ポイント低下とほぼ横ばいで推移する見通しとなっている。

4 採算

(1) 採算

—2期ぶりに悪化—

今期の採算BSI(「好転」-「悪化」)は▲11.6となった(図表6)。前期比3.4ポイント低下し、2期ぶりに悪化した。

業種別にみると、製造業は▲10.8となり前期比8.4ポイント低下となった。内訳をみると、木材・木製品、鉄鋼などの業種で低下した。非製造業は▲12.1となり、同0.3ポイント上昇した。内訳では、サービス他、建設などの業種で上昇した。

採算については「高付加価値商品を投入したことにより販売価格の引き上げに成功した。その結果、採算が大幅に改善した」(サービス他)といった声がある一方、「最低賃金の上昇やパート比率が低下したことにより、労務費が増加しており、収益性が悪化している」(食料品)、「原材料価格高騰による仕入価格の上昇分を製品の販売価格に反映できず、採算が悪化している」(金属製品)といった声も聞かれた。

来期のBSIは▲7.3となり今期に比べ4.3ポイント上昇する見通しとなっている。

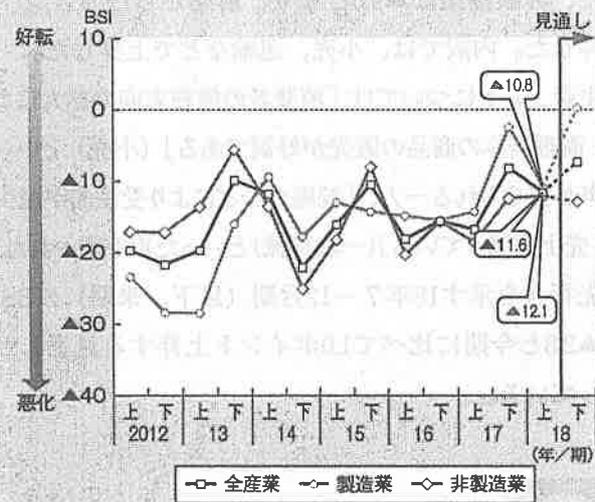
(2) 採算好転・悪化の理由

—好転要因では「売上数量の増大」「高付加価値製(商)品の比率拡大」、悪化要因では「売上数量の減少」「仕入価格の上昇」が上位—

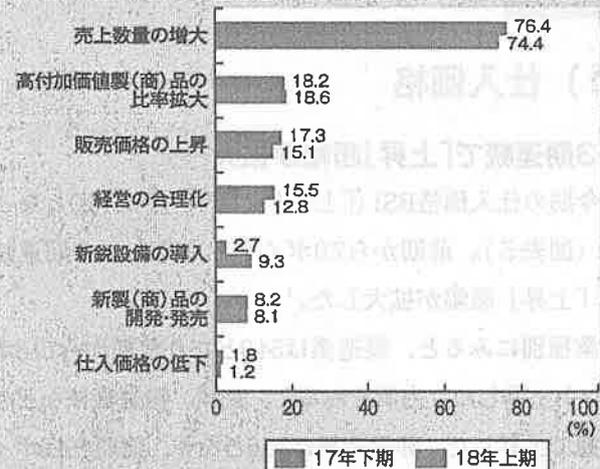
今期の採算が「好転」したと回答した企業にその理由を尋ねたところ(複数回答)、「売上数量の増大」(74.4%)の回答割合が最も高く、以下「高付加価値製(商)品の比率拡大」(18.6%)、「販売価格の上昇」(15.1%)、「経営の合理化」(12.8%)、「新鋭設備の導入」(9.3%)などが続いた(図表7)。

なお、17年下期調査と比べると、「新鋭設備の導入」と「高付加価値製(商)品の比率拡大」の割合が高くなっている。

図表6 採算BSIの推移

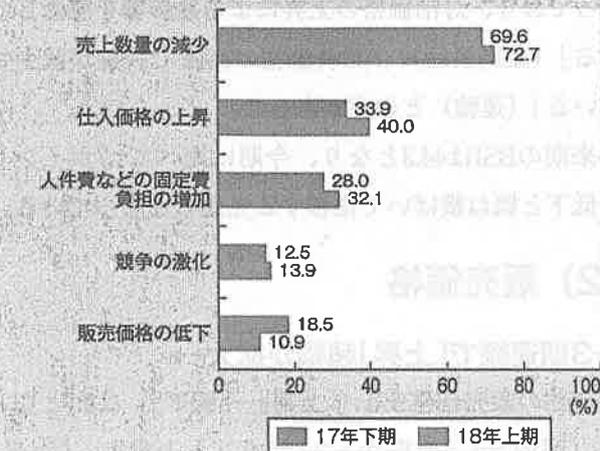


図表7 採算好転の理由(複数回答・上位項目)



n=86

図表8 採算悪化の理由(複数回答・上位項目)



n=165

一方、今期の採算が「悪化」した理由では「売上数量の減少」(72.7%)の回答割合が最も高く、以下「仕入価格の上昇」(40.0%)、「人件費などの固定費負担の増加」(32.1%)、「競争の激化」(13.9%)などが続いた(図表8)。

なお、17年下期調査と比べると、「仕入価格の上昇」と「人件費などの固定費負担の増加」などの割合が高くなっている。

5 雇用

(1) 全産業・業種別

—雇用の不足感が一層高まっている—

今期の雇用BSI(「過剰」-「不足」)は▲38.6となり、前期比2.3ポイント低下した(図表9)。継続的に雇用BSIの調査を開始した1993年下期調査以来、最も水準が低かった17年下期調査をさらに下回り、雇用の不足感は一層強くなった。

業種別にみると、製造業は前期比0.8ポイント上昇の▲30.8となり、「不足」超幅が縮小した。内訳をみると、食品や木材・木製品などで雇用BSIが上昇している。非製造業は前期比4.5ポイント低下し▲44.2となった。内訳では、小売、運輸などで低下した。

雇用については「若い人材の入社が少なく、社内の高齢化が進んでいる」(鉄鋼)、「技術系人員が特に不足しており、受注を受けられない状況となっている」(建設)、「人手不足により人件費が上昇している」(サービス他)などといった声があった。

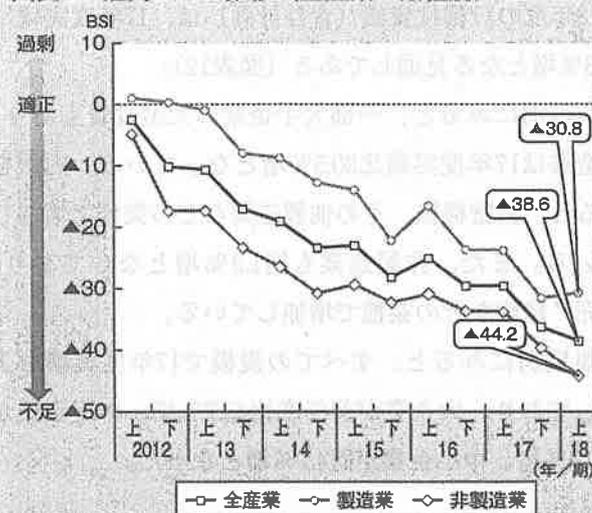
(2) 職種別

—「サービス」「営業・販売」などで「不足」超幅が拡大—

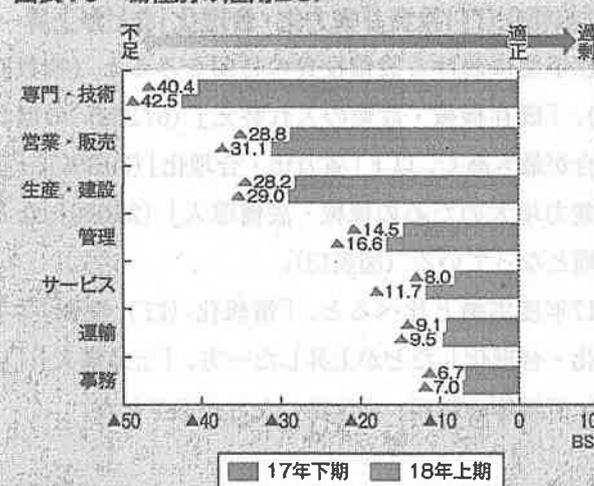
職種別の雇用BSIをみると、「専門・技術」で「不足」超幅が最も大きく、以下「営業・販売」「生産・建設」などが続いている(図表10)。

17年下期と比べると、「サービス」「営業・販売」などの職種で「不足」超幅が拡大した。

図表9 雇用BSIの推移(全産業・業種別)



図表10 職種別の雇用BSI



6 設備投資

(1) 設備投資計画

—18年度の設備投資額は、前年度を上回る見通し—

18年度における設備投資の実施企業割合(含む計画)は55.1%となり、17年度実績を47ポイント下回る見込みとなっている(図表11)。

実施企業割合を業種別にみると、製造業が66.8%、非製造業が46.7%となった。

18年度の設備投資額（含む計画）は、17年度実績比20.8%増となる見通しである（図表12）。

業種別にみると、一部大手企業の大型投資もあり、製造業は17年度実績比30.5%増となっている。内訳をみると、精密機械、その他製造業などの業種で増加している。また、非製造業も同1.3%増となっており、小売、建設などの業種で増加している。

規模別にみると、すべての規模で17年度実績を上回っており、大企業が前年度比40.7%増、中堅企業が同0.5%増、中小企業が同4.1%増となった。

（2）設備投資の目的

—「情報化(IT)投資」「省力化・合理化」などが上昇—

18年度における設備投資の目的をみると（複数回答）、「既存機械・設備の入れ替え」（67.3%）の回答割合が最も高く、以下「省力化・合理化」（30.3%）、「生産能力増大のための機械・設備導入」（29.0%）などの順となっている（図表13）。

17年度実績と比べると、「情報化（IT）投資」「省力化・合理化」などが上昇した一方、「土地購入」「店舗・工場等の新設、増改築」などが低下した。

7 経営上の問題点

—4期連続で「人材不足」がトップ—

経営上の問題点を尋ねたところ（複数回答）、「人材不足」（64.9%）の回答割合が4期連続で最も高くなった。以下「生産・受注・売上の不振」（38.9%）、「先行き見通し難」（38.8%）、「仕入価格の上昇」（37.4%）などが続いている（図表14）。

17年度下期調査と比べると、「人材不足」「仕入価格の上昇」「人件費の増加」などの割合が上昇した一方、「リスク管理体制の弱さ」「販売価格の低下」「競争の激化」などの割合は低下した。

図表11 設備投資の実施企業割合（%）

		16年度実績	17年度実績	18年度計画
業種別	全産業	57.8	59.8	55.1
	製造業	69.2	70.3	66.8
	非製造業	49.5	52.3	46.7
規模別	大企業	87.9	90.9	84.8
	中堅企業	57.8	71.1	68.9
	中小企業	53.9	57.3	52.5

図表12 設備投資額の前年度比増減率（%）

		17年度/16年度	18年度/17年度
業種別	全産業	▲0.7	20.8
	製造業	▲5.9	30.5
	非製造業	11.8	1.3
規模別	大企業	▲16.2	40.7
	中堅企業	16.5	0.5
	中小企業	19.2	4.1

図表13 設備投資の目的（複数回答）



経営上の問題については、「人手不足や働き方改革による長時間労働の抑制により、外注費が増えており収益悪化の要因となっている」（その他製造）、「売上が伸びている部門はあるが、人件費の増加や運送費の値上げにより利益幅が少なくなっており、改善策を検討している」（小売）などといった声があった。

8 賃 金

(1) 賃上げの状況

—3割超の企業がベースアップを実施—

18年度におけるベースアップの実施予定を尋ねたところ、「実施した」と回答した企業の割合は32.1%となった（図表15）。また、定期昇給を「実施した」と回答した企業の割合は60.0%となった。

なお、ベースアップを「実施した」「実施を検討中」を合わせた「ベースアップに前向き」な回答割合は46.3%となり、前年同時期に行なった「2017年上期企業動向調査（以下、前年調査）」に比べると、3.8ポイント上回っている。

(2) 賃金の引き上げ率

—引き上げ率は「1.5%以上2.0%未満」が最も高い—

18年度にベースアップもしくは定期昇給を「実施した」または「実施を検討中」と回答した企業に、賃金の引き上げ率について尋ねたところ、「1.5%以上2.0%未満」（27.0%）の回答割合が最も高く、以下「1.0%以上1.5%未満」（26.3%）、「2.0%以上2.5%未満」（16.1%）などの順となった（図表16）。

(3) 賞与・一時金の状況

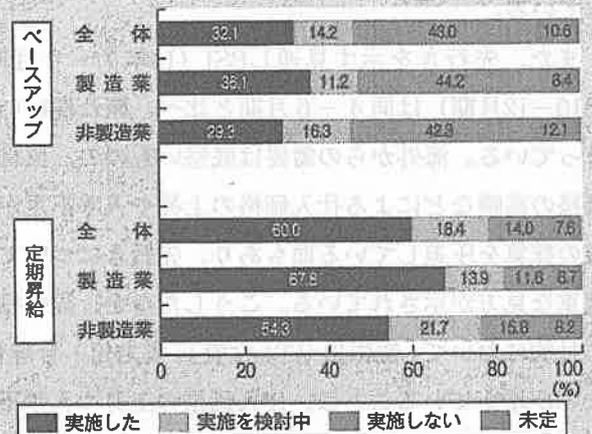
—夏季の賞与・一時金増額は約1割の企業が実施—

18年度の夏季における賞与・一時金の支給について尋ねたところ、「未定」とする回答が多いものの、「増

図表14 経営上の問題点（複数回答・上位項目）

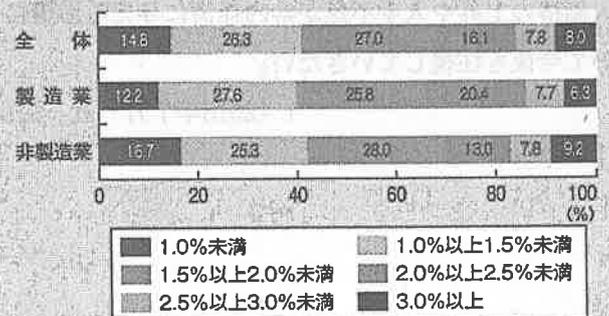


図表15 ベースアップ、定期昇給の状況(2018年度)



※無回答を除く
四捨五入の関係で、内訳が100%とならない場合がある

図表16 賃金の引き上げ率 (2018年度)



n=514
※無回答を除く
定期昇給とベースアップを区別している場合は合算した引き上げ率を集計

額する」と回答した企業の割合は9.9%、「増額を検討中」が16.1%、「据え置く」が42.3%となった（図表17）。「増額する」「増額を検討中」を合わせた「増額に前向き」な企業の割合は26.0%となっており、前年調査と比べると、2.5ポイント上回っている。

まとめ

—先行きの業況感は概ね横ばいで推移する見通し—

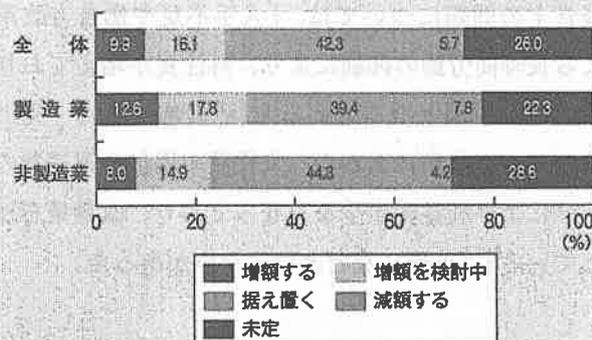
アンケート調査結果をみると、県内企業の「業況感」は18年1-3月期に上昇したものの、18年4-6月期（含む実績見込み）は低下し、概ね横ばい圏内で推移している。

また、先行きを示す見通しBSI（18年7-9月期、同10-12月期）は同4-6月期と比べ、概ね横ばいとなっている。海外からの需要は底堅いものの、原材料価格の高騰などによる仕入価格の上昇や人手不足が企業の採算を圧迫している面もあり、先行きについても慎重な見方が示されている。こうしたなか、設備投資の目的において「情報化（IT）投資」「省力化・合理化」などが増えていることは、仕入価格の上昇や人手不足への対策の一環とも考えられる。

一方、米国の通商政策や各国の金融政策を背景とした金利や為替動向など不透明な材料があるなかで、仕入価格の上昇や人手不足が県内経済に与える影響について今後も注視していきたい。

（2018年7月 近 由夏）

図表17 夏季の賞与・一時金の状況（2018年度）



※無回答を除く
四捨五入の関係で、内訳が100%にならない場合がある

【調査の要領】

- 調査対象 …… 県内事業所 1,000社
- 調査方法 …… 郵送による記名アンケート方式
- 調査時期 …… 2018年5月18日～5月31日
- 回答状況 …… 回答事業所数 682社

製造業	286社
非製造業	396社
有効回答率	68.2%

〈内訳〉

		企業数(社)	企業割合(%)
全産業		682	100.0%
業種別	製造業	286	41.9%
	食料品	38	5.6%
	繊維	13	1.9%
	木材・木製品	9	1.3%
	化学	10	1.5%
	窯業・土石	20	2.9%
	鉄鋼	12	1.8%
	金属製品	46	6.7%
	一般機械	26	3.8%
	電気機械	19	2.8%
	輸送機械	15	2.2%
	精密機械	13	1.9%
	その他製造業	65	9.5%
	非製造業	396	58.1%
	建設業	105	15.4%
	卸売業	90	13.2%
	小売業	36	5.3%
	運輸	32	4.7%
	サービス他	133	19.5%
企業規模	大企業	33	4.8%
	中堅企業	45	6.6%
	中小企業	604	88.6%
地域	下越	307	45.0%
	中越	265	38.9%
	上越	109	16.0%
	無回答	1	0.2%

（注）四捨五入の関係で、内訳と合計が一致しない場合がある

2018/4～2018/6

このふるささが誇りです。



上越信用金庫

〒942-0001

上越市中央1丁目11番1号

TEL 025-546-7145

FAX 025-545-4400

URL <http://www.joetsu-shinkin.jp>

担当：総合企画部

上越信用金庫 中小企業景気動向調査 上越市版

Vol. 27

2018/7 発行

上越信用金庫では、この程上越地域の中小企業の皆様からご協力をいただき、平成30年4月～6月期の景気の現状と平成30年7月～9月期の見通しを調査いたしました。

対象業種は、製造業、卸売業、小売業、サービス業、建設業、不動産業の6業種です。

なお、今回は平成30年3月に行った前回調査結果および信金中央金庫が実施している同種の調査結果による全国平均とを比較して分析しています。

<調査概要>

1. 調査時点 : 平成30年5月23日～6月14日
2. 調査方法 : 上越地域の営業店得意先による調査表に基づくアンケート
3. 依頼先数 : 326社(有効回答数322社・回答率98.7%)【信金中央金庫アンケート分含む】
4. 分析方法 : 各質問項目について、「増加」(良い) - 「減少」(悪い)の構成比の差=判断D. I. に基づく分析
D. I. とは、良い割合から悪い割合を差引いた値
5. 分析値 : 各数値は、四捨五入にて表示

<概況>

～今期は業況改善、来期はさらに改善の見通し～

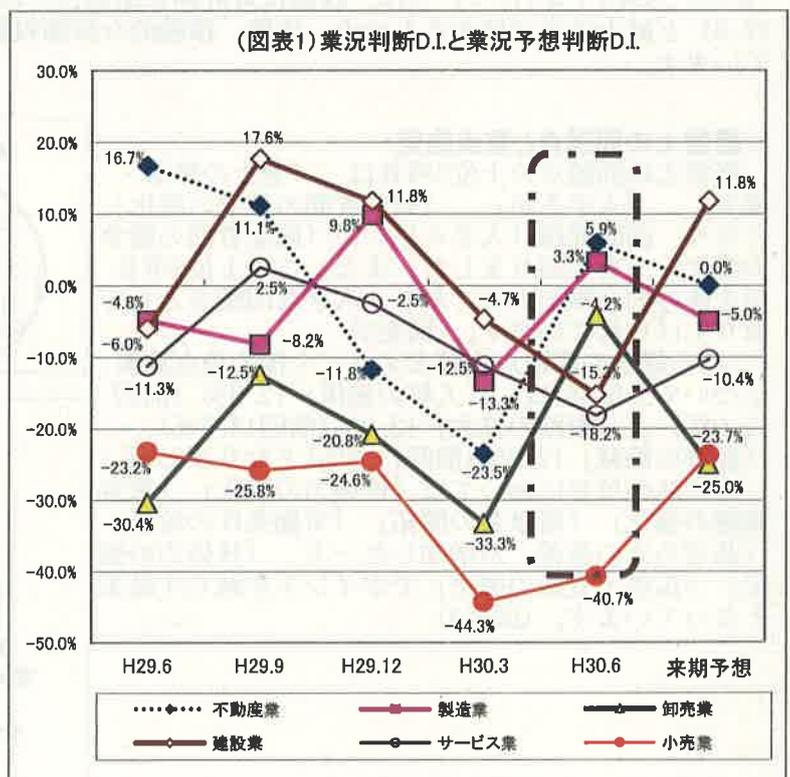
平成30年4月～6月期(今期)の業況判断D. I. は、全国平均においては $\Delta 2.5$ (前回 $\Delta 2.1$)と前期に比べ0.4ポイントの低下となりました。当地においては、サービス業と建設業の2業種で業況判断D. I. が低下しましたが、全体では $\Delta 15.2$ と前回 $\Delta 18.3$ より3.1ポイント業況判断D. I. が改善する結果となりました。

今期の業種別業況判断D. I. を見ると、全6業種中、4業種(製造業 $\Delta 3.3$ 、卸売業 $\Delta 4.2$ 、小売業 $\Delta 40.7$ 、不動産業 $\Delta 5.9$)で改善となりました。製造業 $\Delta 3.3$ (前回 $\Delta 13.3$)については、平成29年9月～12期に、調査開始以来、初めてプラス指数になったものの、前回マイナス指数に低下してしまいましたが、今期は再びプラス指数に転じています。

平成30年7月～9月期(来期)の業況予想判断D. I. は、 $\Delta 6.5$ となり、今期実績 $\Delta 15.2$ よりも8.7ポイント改善する見通しとなっています。

また、業種別の業況予想判断D. I. においては、3業種(小売業 $\Delta 23.7$ 、サービス業 $\Delta 10.4$ 、建設業 $\Delta 11.8$)で改善の見通しとなっています。(図表1)

(図表1)業況判断D.I.と業況予想判断D.I.



～売上額増加に伴い、収益も増加～

収益面では、売上額判断D. I. が△3.4 (前回△25.7) と大幅に増加しており、収益判断D. I. は△8.1 (前回△29.1) と、前回に比べ21.0ポイント改善する結果となりました。来期の予想収益判断D. I. は4.9となりプラス指数に改善する見通しとなっています。

業種別の収益判断D. I. では、全6業種で増加となりました。

また、業種別の来期7月～9月期の収益予想判断D. I. では、小売業△10.2 (当期実績△11.9)、サービス業6.5 (当期実績△9.1)、建設業17.6 (当期実績△10.6)、不動産業17.6 (当期実績△5.9) の4業種は改善の予想、製造業△13.3 (当期実績△3.3)、卸売業△4.2 (当期実績0.0) は低下の予想となっております。

～僅かに人手不足感は弱まる～

人手過不足判断D. I. は、△29.8 (マイナスは人手「不足」超) となり前回 (△30.0) よりわずかに人手不足感は弱まりました。全国平均も△26.0と前期比0.9ポイント低下となり人手不足感は弱まっています。業種別では、製造業△31.7、不動産業△17.6は横ばい、卸売業△25.0 (前回△33.3)、サービス業△35.1 (前回△36.3)、建設業△34.1 (前回△38.8) の3業種は弱まりましたが、小売業△20.3 (前回△9.8) は人手不足感が強まりました。

～販売価格、仕入価格ともに上昇～

販売価格判断D. I. は、4.0 (前回△4.9) と上昇し、プラス指数に転じています。全国平均は、5.3 (前回4.9) と0.4ポイント増加し、7期連続でプラス指数を維持しています。また、仕入価格判断D. I. は、33.5 (前回25.1) となり8.4ポイント上昇する結果となりました。全国平均 (25.8) は2.2ポイント上昇しています。

～景況感の改善に伴い資金繰りは改善～

景況感の改善に伴い資金繰り判断D. I. は、△13.4 (前回△13.8) と0.4ポイント改善しています。、全国平均△4.0 (前回△6.8) と比較すると、依然厳しい資金繰り状況が続いています。

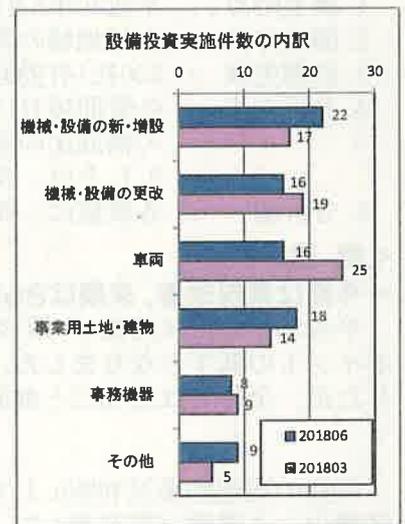
業種別の資金繰り判断D. I. は、卸売業△4.2 (前回△8.3)、サービス業△13.0 (前回△15.0)、不動産業5.9 (前回△11.8) は緩和しましたが、製造業、小売業、建設業はタイト感が増しています。

～設備投資は全国平均以上、依然堅調に推移～

設備投資実施企業割合は、27.6となり、前回(27.2) より0.4ポイント増加しており、前回同様、全国平均22.6(前回22.0)を上回る投資マインドとなっています。

内訳としては、機械・設備の新・増設22件(前回17先)、機械・設備の更新16先(前回19先)、車両16先(前回25先)等となっています。

また、来期(予定)については、設備投資計画企業割合が26.4(当期実績27.6)と減少予定ではあるものの、依然、積極的な設備投資行動が見込まれています。

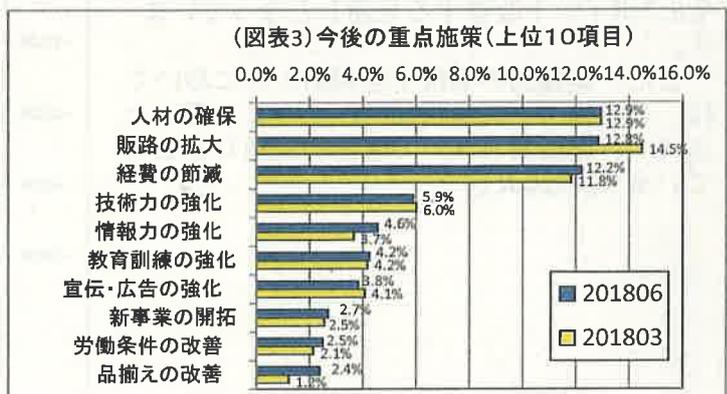
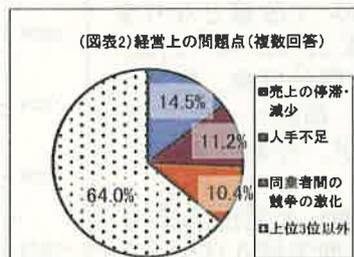


～経営上の問題点と重点施策～

経営上の問題点の上位3項目は、「売上の停滞・減少」、「人手不足」、「同業者間の競争の激化」となり、前回同様「人手不足」が「同業者間の競争の激化」を上回りました。また、この上位3項目が全体の約3割を占めており、大きな問題点として取り上げられています。(図表2)

これら経営の問題点を踏まえた、今後の重点施策について上位3位は、「人材の確保」12.9% (前回12.9%)、「販路の拡大」12.8% (前回14.5%)、「経費の節減」12.2% (前回11.8%) となりました。

その他の項目においては「情報力の強化」「教育訓練の強化」「新事業の開拓」「労働条件の改善」「品ぞろえの改善」が増加した一方、「技術力の強化」「広告・宣伝の強化」でポイントを減らす結果となっています。(図表3)



<製造業>【回答企業60社】

今期の業況判断D.I.は、全国平均で3.7(前回2.5)と1.2ポイント改善しましたが、当地でも、3.3(前回△13.3)となり、16.7ポイント改善し、プラス指数へ転じています。来期予想の業況予想判断D.I.は、△5.0となり、8.3ポイント低下の見通しとなっています。(図表1)

製造業内の主要4業種の今期の業種別業況判断D.I.は、食料品△40.0(前回△60.0)、木材・木製品△25.0(前回△40.0)、その他金属製品30.8(前回18.8)の3業種は改善、その他の製造業25.0(前回25.0)は横ばいとなっています。

来期の業況予想判断D.I.は、食料品△33.3は改善、木材・木製品△50.0、その他金属製品23.1、その他の製造業12.5は低下の見通しとなっています。

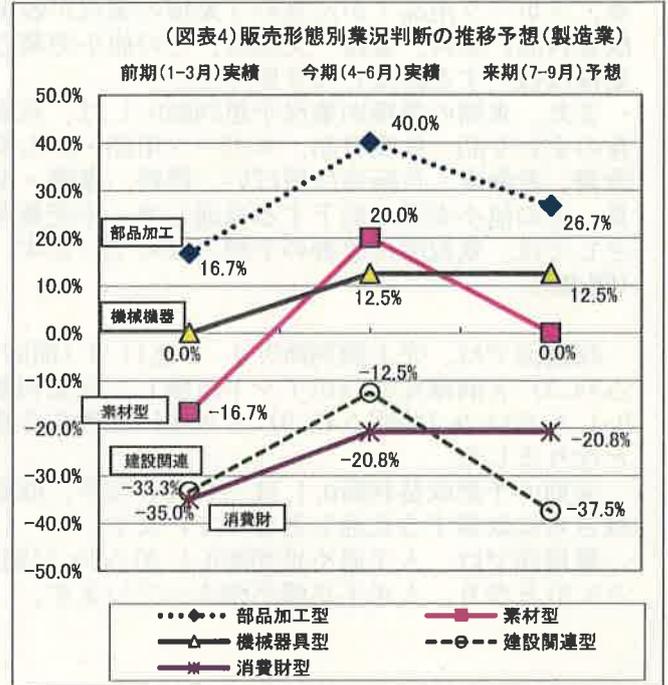
また、販売形態別の業況判断D.I.においては、機械器具型12.5(前回0.0)、建設関連型△12.5(前回△33.3)、消費財型△20.8(前回△35.0)、素材型20.0(前回△16.7)、部品加工型40.0(前回16.7)となり全5形態で改善となりました。

来期の業況予想判断D.I.は、機械器具型12.5(今期実績12.5)、消費財型△20.8(今期実績△20.8)は横ばい、建設関連型△37.5(今期実績△12.5)、素材型0.0(今期実績20.0)、部品加工型26.7(今期実績40.0)は低下を予想しております。(図表4)

収益判断D.I.については、△3.3(前回△21.7)となり18.4ポイントの改善となりました。

来期の予想収益判断D.I.は△13.3となり低下する見通しとなっています。

雇用面では、人手過不足判断D.I.が△31.7(前回△31.7)となり、人手不足感は横ばいで推移しており、依然として慢性的な人手不足が続く状況となっています。



<卸売業>【回答企業24社】

今期の業況判断D.I.は、全国平均△10.6(前回△12.5)は1.9ポイント改善しましたが、当地でも△4.2(前回△33.3)と29.1ポイント改善しました。来期の業況予想判断D.I.は△25.0と20.8ポイント低下の見通しとなっています。(図表1)

卸売業内の今期の業種別業況判断D.I.(上位4業種)は、機械器具0.0(前回△50.0)、建築材料0.0(前回△33.3)、その他の卸売業60.0(前回0.0)は改善、食料飲料△80.0(前回△80.0)は横ばいで推移しています。

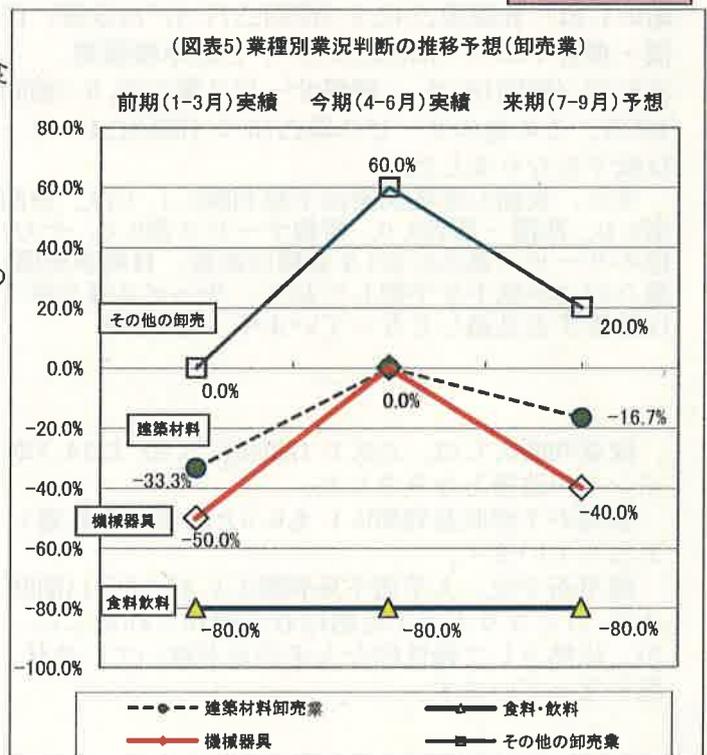
来期の業種別業況予想判断D.I.は、食料飲料△80.0(今期実績△80.0)は横ばいの見通しですが、機械器具△40.0(今期実績0.0)、建築材料△16.7(今期実績0.0)、その他の卸売業20.0(今期実績60.0)は低下の厳しい見通しとなっています。(図表5)

収益面では売上判断D.I.は△4.2(前回△37.5)と33.3ポイントの改善となり、収益判断D.I.も0.0(前回△33.3)と大幅に改善しています。

来期の予想収益判断D.I.は△4.2と4.2ポイント低下の見通しとなっています。

雇用面では、人手過不足判断D.I.が△25.0(前回△33.3)となり人手不足感は弱まっています。

主要業種抜粋



<小売業>【回答企業59社】

今期の業況判断D.I.は、 $\Delta 40.7$ （前回 $\Delta 44.3$ ）と3.6ポイント改善しましたが、全国平均 $\Delta 20.1$ （前回 $\Delta 19.3$ ）同様厳しい状況が続いています。

来期の業況予想判断D.I.は $\Delta 23.7$ となり、17.0ポイント改善する見通しとなっています。

（図表1）

小売業内の今期の業種別業況判断D.I.は、上位7業種のうち、衣服・身のまわり品、自動車・自転車、スポーツ用品・がん具の3業種の業況が改善、飲食料品、燃料、書籍・文房具、その他小売業の4業種は低下する結果となりました。

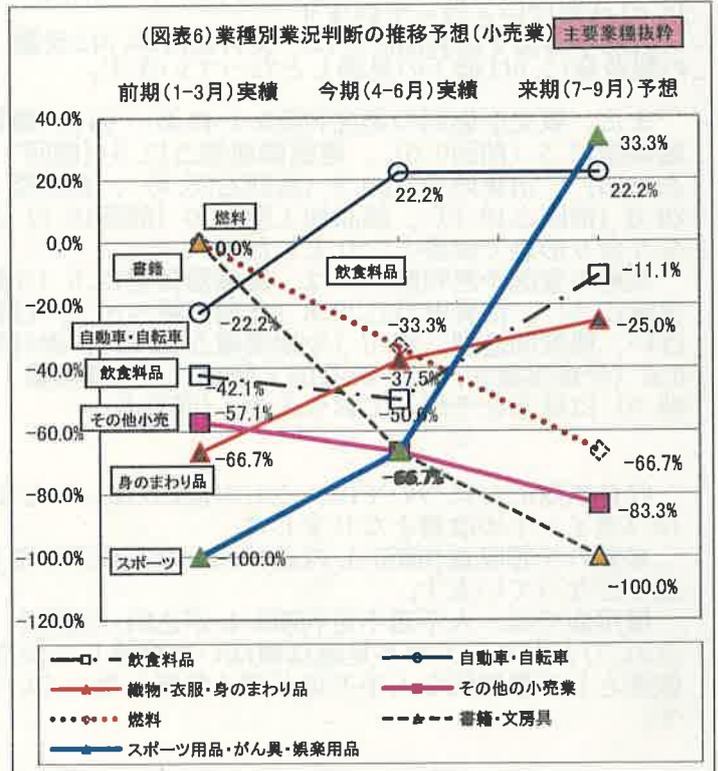
また、来期の業種別業況予想判断D.I.は、衣服・身のまわり品、飲食料品、スポーツ用品・がん具は改善、自動車・自転車は横ばい、燃料、書籍・文房具、その他小売業は低下する見通しで、小売業全体としては、景況感は改善の予想となっています。

（図表6）

収益面では、売上額判断D.I.が $\Delta 11.9$ （前回 $\Delta 44.3$ ）と前期比32.4ポイント改善し、収益判断D.I.も $\Delta 11.9$ （前回 $\Delta 45.9$ ）と大幅に改善する結果となりました。

来期の予想収益判断D.I.は $\Delta 10.2$ となり、収益性はさらに改善する見通しとなっています。

雇用面では、人手過不足判断D.I.が $\Delta 20.3$ （前回 $\Delta 9.8$ ）となり、人手不足感が強まっています。



<サービス業>【回答企業77社】

今期の業況判断D.I.は、全国平均 $\Delta 8.0$ （前回 $\Delta 6.4$ ）は、低下しましたが、当地でも $\Delta 18.2$ （前回 $\Delta 11.3$ ）と6.9ポイント低下しています。来期の業況予想判断D.I.は $\Delta 10.4$ となり改善する見通しとなっています。（図表1）

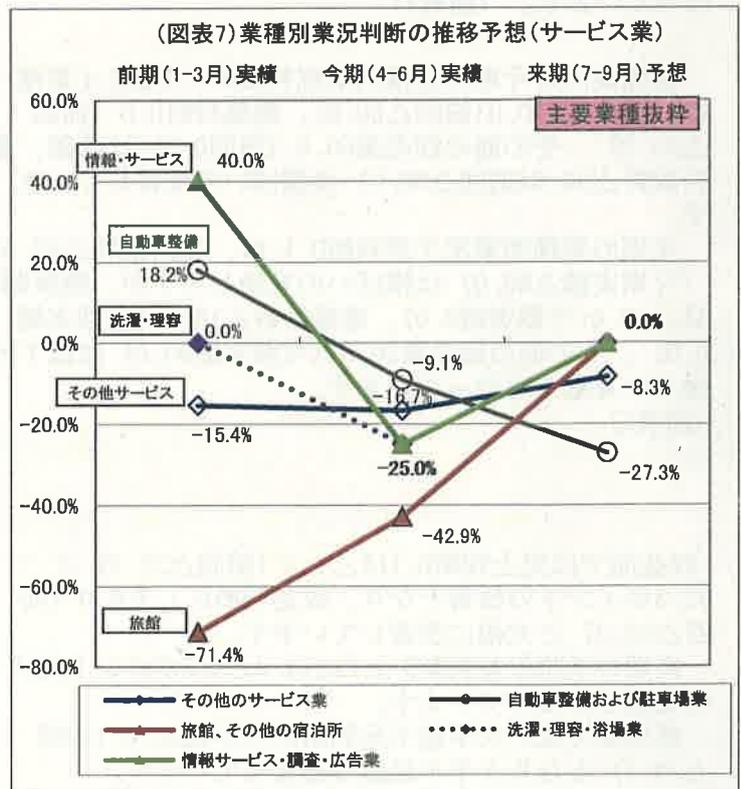
サービス業内の上位5業種の今期の業種別業況判断D.I.は、旅館業 $\Delta 42.9$ （前回 $\Delta 71.4$ ）は改善、洗濯・理容 $\nabla 25.0$ （前回 $\Delta 0.0$ ）、自動車整備業 $\Delta 9.15$ （前回18.2）、情報サービス業 $\Delta 25.0$ （前回40.0）、その他のサービス業 $\Delta 16.7$ （前回 $\Delta 15.4$ ）は低下となりました。

また、来期の業種別業況予想判断D.I.では、旅館業0.0、洗濯・理容0.0、情報サービス業0.0、その他のサービス業 $\Delta 8.3$ の4業種は改善、自動車整備業 $\Delta 27.3$ が低下を予想しており、サービス業全体では改善する見通しとなっています。（図表7）

収益判断D.I.は、 $\Delta 9.1$ （前回 $\Delta 23.8$ ）は14.7ポイントの改善となりました。

来期の予想収益判断D.I.も6.5と改善する見通しとなっています。

雇用面では、人手過不足判断D.I.が $\Delta 35.1$ （前回 $\Delta 36.3$ ）となり人手不足感は若干緩和されましたが、依然として慢性的な人手不足が続いている状況となっています。



<建設業>【回答企業85社】

今期の業況判断D. I. は、 $\Delta 15.3$ (前回 $\Delta 4.7$)と10.6ポイントの低下となりました。全国平均8.7 (前回12.3) は、低下したものの、2016年9月以降プラス指数で推移していますが、当地ではマイナス指数となっています。

来期の業況予想判断D. I. については11.8となり大幅に改善する見通しとなっています。(図表1)

建設業内の今期の業種別業況判断D. I. は、総合工事業 $\Delta 2.3$ (前回4.8)、職別工事業 $\Delta 7.4$ (前回 $\Delta 12.0$)、設備工事業 $\Delta 71.4$ (前回 $\Delta 17.6$)となり建設業全体では低下する結果となりました。

来期の業況予想については、総合工事業15.9、職別工事業22.2、設備工事業 $\Delta 21.4$ となり3業種全てで改善の見通しとなっています。

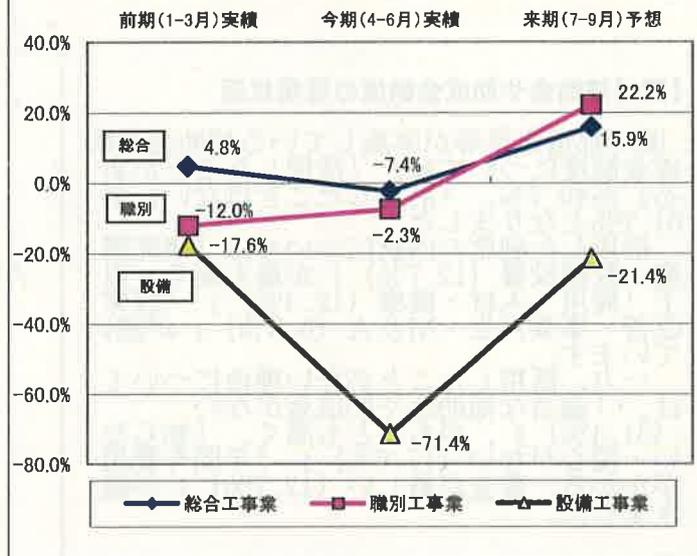
(図表8)

収益判断D. I. については、 $\Delta 10.6$ (前回 $\Delta 25.9$)と15.3ポイントの改善となりました。

来期の予想収益判断D. I. は17.6を予想しており、さらに改善の見通しとなっています。

雇用面では、人手過不足判断D. I. が $\Delta 34.1$ (前回 $\Delta 38.8$)と人手不足感は若干緩和されたものの、依然として慢性的な人手不足が続く状況となっています。

(図表8)業種別業況判断の推移予想(建設業)



<不動産業>【回答企業17社】

今期の業況判断D. I. は、5.9 (前回 $\Delta 23.5$)と29.4ポイント改善しました。全国平均11.7 (前回13.1)は14期連続でプラス指数を維持しています。

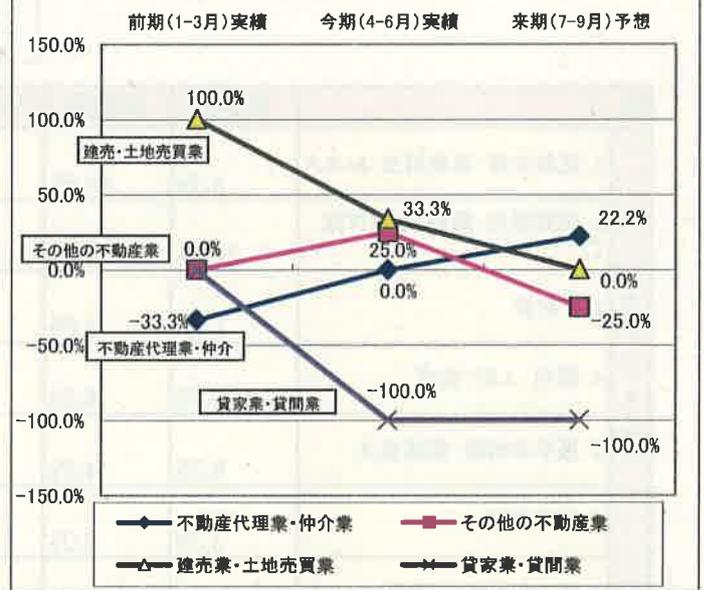
来期の業況予想判断D. I. は0.0となり低下する見通しとなっています。(図表1)

不動産業内の業種別では、不動産代理業・仲介業0.0 (前回 $\Delta 33.3$)、その他の不動産業25.0 (前回0.0)は改善、貸家業・貸間業 $\Delta 100.0$ (前回0.0)、建売・土地売買業33.3 (前回100.0)は低下しました。

来期の業況予想D. I. は、不動産代理業・仲介業22.2は改善、貸家業・貸間業 $\Delta 100.0$ は横ばい、建売・土地売買業0.0、その他の不動産業 $\Delta 25.0$ は低下の見通しとなっています。

(図表9)

(図表9)業種別業況判断の推移予想(不動産業)



収益判断D. I. については、 $\Delta 5.9$ (前回 $\Delta 29.4$)となり23.5ポイントの改善となりました。

また、来期の予想収益判断D. I. については17.6を予想しており、大幅な改善の見通しとなっています。

雇用面では、人手過不足判断D. I. が $\Delta 17.6$ (前回 $\Delta 17.6$)となり、前回、前々回と同様の結果となりました。

以上

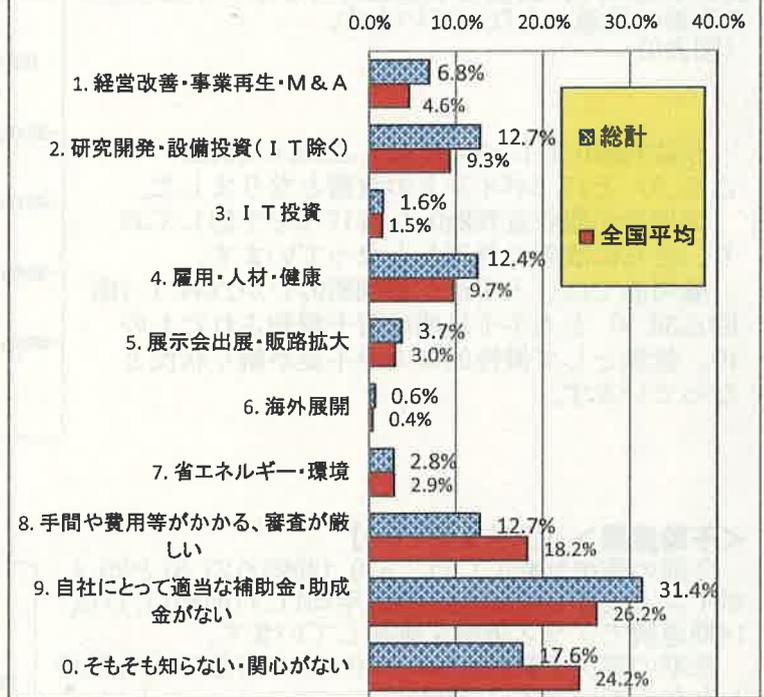
特別調査の結果について
～中小企業経営に関する各種支援制度の利用について～

公的機関や金融機関は、中小企業に対してさまざまな経営支援施策を実施しています。そこで今回は、中小企業における各種支援制度の利用状況の実態について調査しました。なお、複数回答の設問については、項目合計が100%をこえることとなりますのでお含みおき下さい。

【問1】補助金や助成金制度の活用状況

国や都道府県等が実施している補助金や助成金制度については、「活用したことがある」が40.7%、「活用したことはない」が61.7%となりました。活用した制度の内訳については「研究開発・設備投資（12.7%）」が最も高く、以下「雇用・人材・健康（12.4%）」、「経営改善・事業再生・M&A（6.8%）」が続いています。一方、活用したことがない理由については、「適当な補助金や助成金がない（31.4%）」がもっとも高く、「知らない・関心がない（17.6%）」、「手間や費用がかかる、審査が厳しい（12.7%）」が続きました。

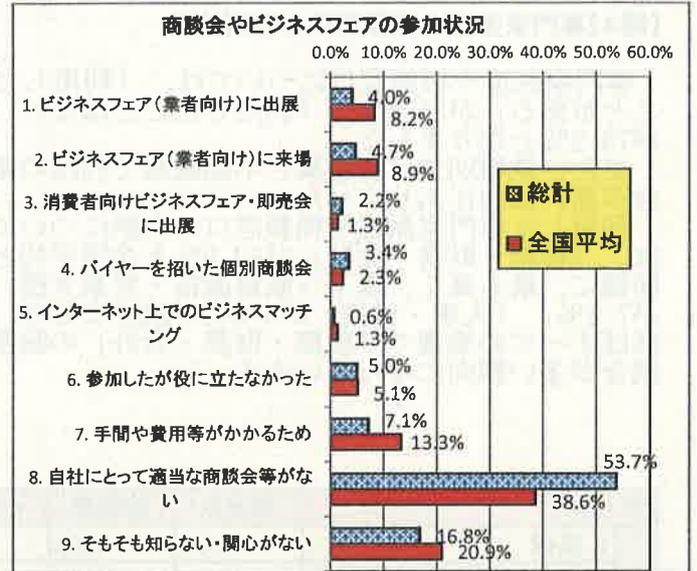
補助金や助成金制度の活用状況



問 1	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	総計	全国平均
活用したことがある								
1. 経営改善・事業再生・M&A	3.3%	12.5%	11.9%	6.5%	5.9%	0.0%	6.8%	4.6%
2. 研究開発・設備投資（IT除く）	26.7%	4.2%	11.9%	13.0%	8.2%	0.0%	12.7%	9.3%
3. IT投資	1.7%	4.2%	0.0%	3.9%	0.0%	0.0%	1.6%	1.5%
4. 雇用・人材・健康	6.7%	4.2%	3.4%	18.2%	21.2%	5.9%	12.4%	9.7%
5. 展示会出展・販路拡大	8.3%	4.2%	3.4%	3.9%	1.2%	0.0%	3.7%	3.0%
6. 海外展開	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.4%
7. 省エネルギー・環境	3.3%	0.0%	1.7%	3.9%	3.5%	0.0%	2.8%	2.9%
活用したことがない								
8. 手間や費用等がかかる、審査が厳しい	23.3%	12.5%	8.5%	6.5%	12.9%	17.6%	12.7%	18.2%
9. 自社にとって適当な補助金・助成金がない	16.7%	45.8%	42.4%	24.7%	30.6%	58.8%	31.4%	26.2%
0. そもそも知らない・関心がない	6.7%	12.5%	16.9%	18.2%	14.1%	17.6%	17.6%	24.2%

【問2】商談会やビジネスフェアの参加状況

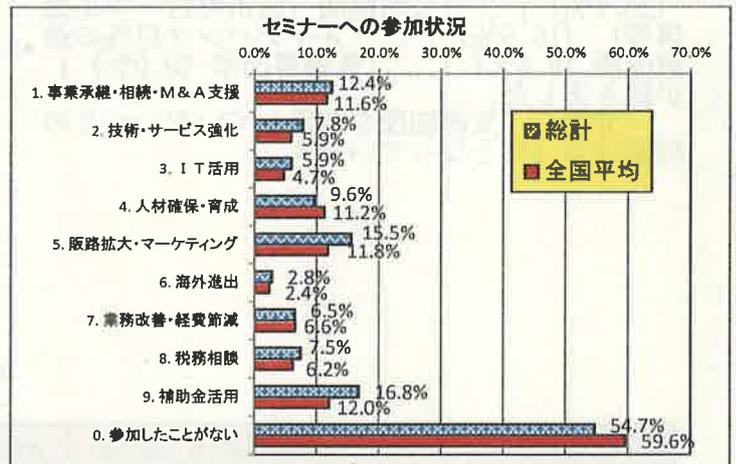
商談会やビジネスフェアについては、「参加したことがある」が19.9%、「参加したことはない」が77.6%となりました。
 参加した商談会等の内訳については、「ビジネスフェア来場（業者向け）」が4.7%と最も高く、以下「ビジネスフェア出展（業者向け）」が4.0%で続いています。
 また、「参加したが役に立たなかった」は5.0%となっています。
 一方、参加したことがない理由については、「適当な商談会等がない（53.7%）」、「知らない・関心がない（16.8%）」、「手間や費用がかかる（7.1%）」が続いた。



問 2	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	総計	全国平均
参加したことがある	1. ビジネスフェア(業者向け)に出展	10.0%	12.5%	0.0%	2.6%	2.4%	4.0%	8.2%
	2. ビジネスフェア(業者向け)に来場	8.3%	4.2%	3.4%	6.5%	2.4%	4.7%	8.9%
	3. 消費者向けビジネスフェア・即売会に出展	5.0%	4.2%	1.7%	1.3%	0.0%	2.2%	1.3%
	4. バイヤーを招いた個別商談会	13.3%	0.0%	3.4%	1.3%	0.0%	3.4%	2.3%
	5. インターネット上でのビジネスマッチング	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	1.3%
	6. 参加したが役に立たなかった	5.0%	0.0%	5.1%	9.1%	3.5%	5.0%	5.1%
参加したことがない	7. 手間や費用等がかかるため	10.0%	4.2%	3.4%	6.5%	10.6%	7.1%	13.3%
	8. 自社にとって適当な商談会等がない	40.0%	54.2%	59.3%	48.1%	61.2%	53.7%	38.6%
	9. そもそも知らない・関心がない	6.7%	16.7%	20.3%	22.1%	16.5%	16.8%	20.9%

【問3】セミナーへの参加状況

参加したことがある公的機関等が主催するセミナーの内訳については、「補助金活用（16.8%）」、「販路拡大・マーケティング（15.5%）」、「事業承継・相続・M&A支援（12.4%）」、「人材確保・育成（9.6%）」が高くなっています。
 業種別では、製造業と建設業で「補助金活用」、卸売業と小売業およびサービス業で「販路拡大・マーケティング」、不動産業で「事業承継・相続・M&A支援」がそれぞれ高くなっており、役立っているセミナーに差がみられました。



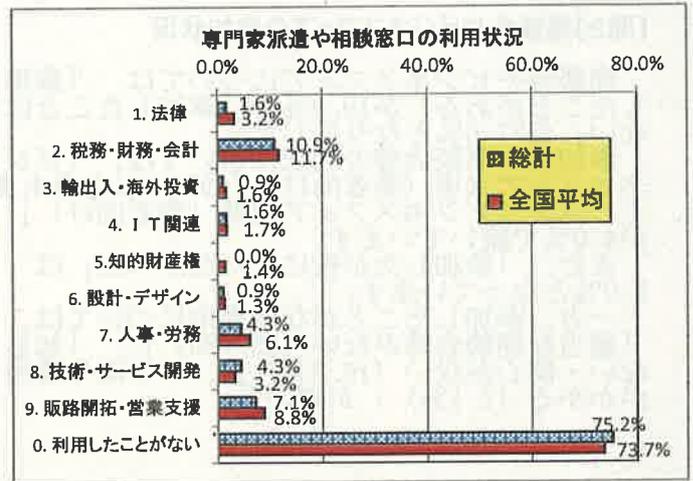
問 3	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	総計	全国平均
参加したことがある	1. 事業承継・相続・M&A支援	10.0%	12.5%	11.9%	7.8%	15.3%	12.4%	11.6%
	2. 技術・サービス強化	8.3%	0.0%	1.7%	10.4%	8.2%	7.8%	5.9%
	3. IT活用	8.3%	12.5%	8.5%	1.3%	4.7%	5.9%	4.7%
	4. 人材確保・育成	8.3%	4.2%	8.5%	11.7%	9.4%	9.6%	11.2%
	5. 販路拡大・マーケティング	20.0%	12.5%	22.0%	19.5%	3.5%	23.5%	15.5%
	6. 海外進出	8.3%	0.0%	0.0%	1.3%	3.5%	0.0%	2.8%
	7. 業務改善・経費節減	5.0%	8.3%	10.2%	6.5%	3.5%	11.8%	6.5%
	8. 税務相談	3.3%	0.0%	6.8%	5.2%	10.6%	29.4%	7.5%
	9. 補助金活用	30.0%	4.2%	8.5%	18.2%	18.8%	0.0%	16.8%
	0. 参加したことがない	45.0%	66.7%	62.7%	53.2%	55.3%	47.1%	54.7%

【問4】専門家派遣や相談窓口の利用状況

専門家派遣や相談窓口については、「利用したことがある」が31.7%、「利用したことはない」が75.2%となりました。

また、業種別では製造業と不動産業で利用の割合が高い傾向にあります。

利用した専門家派遣や相談窓口の内訳については、「税務・財務・会計」が10.9%と全国平均と同様に、最も高く、以下「販路開拓・営業支援」が7.1%、「人事・労務」が4.3%で続きました。ほぼすべての業種で「税務・財務・会計」の回答割合が多い傾向にあります。

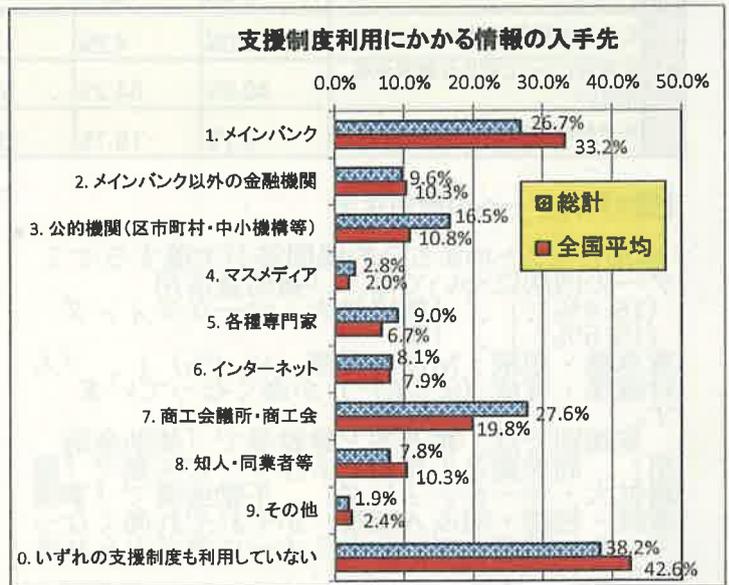


問 4	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	総計	全国平均
1. 法律	0.0%	0.0%	3.4%	1.3%	0.0%	11.8%	1.6%	3.2%
2. 税務・財務・会計	10.0%	12.5%	10.2%	11.7%	8.2%	23.5%	10.9%	11.7%
3. 輸出入・海外投資	3.3%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.9%	1.6%
4. IT関連	3.3%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	1.6%	1.7%
5. 知的財産権	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%
6. 設計・デザイン	1.7%	0.0%	1.7%	0.0%	1.2%	0.0%	0.9%	1.3%
7. 人事・労務	6.7%	4.2%	5.1%	3.9%	3.5%	0.0%	4.3%	6.1%
8. 技術・サービス開発	11.7%	0.0%	1.7%	6.5%	1.2%	0.0%	4.3%	3.2%
9. 販路開拓・営業支援	15.0%	8.3%	6.8%	3.9%	3.5%	11.8%	7.1%	8.8%
0. 利用したことがない	65.0%	79.2%	78.0%	71.4%	83.5%	70.6%	75.2%	73.7%

【問5】支援制度利用にかかる情報の入手先

支援制度利用にかかる情報の入手先については、「商工会議所・商工会 (27.6%)」が最も高くなっています。以下、「メインバンク (26.7%)」、「公的機関 (区市町村・中小機構等) (16.5%)」、「メインバンク以外の金融機関 (9.6%)」、「各種専門家 (9.0%)」が続きました。

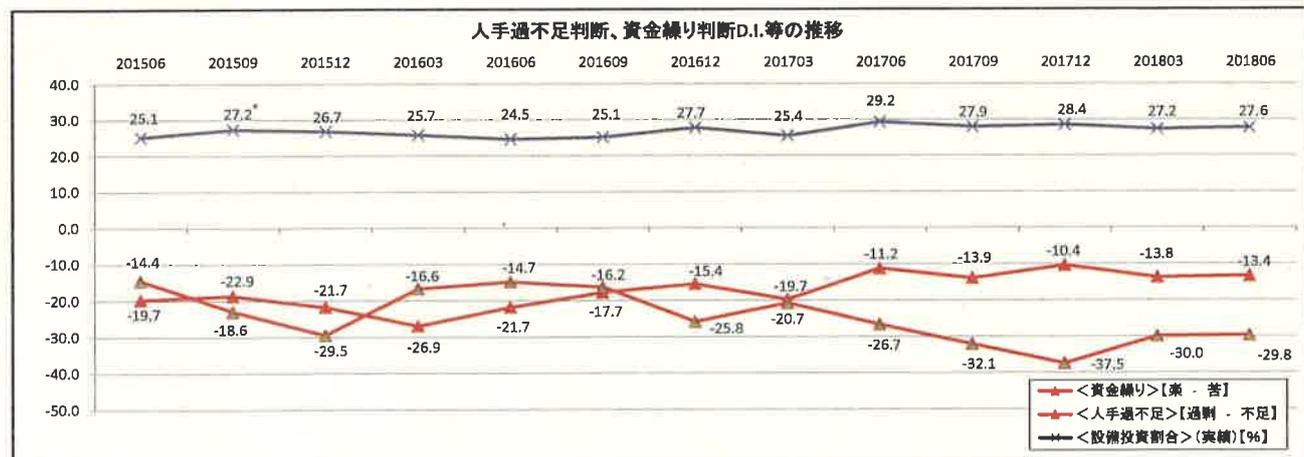
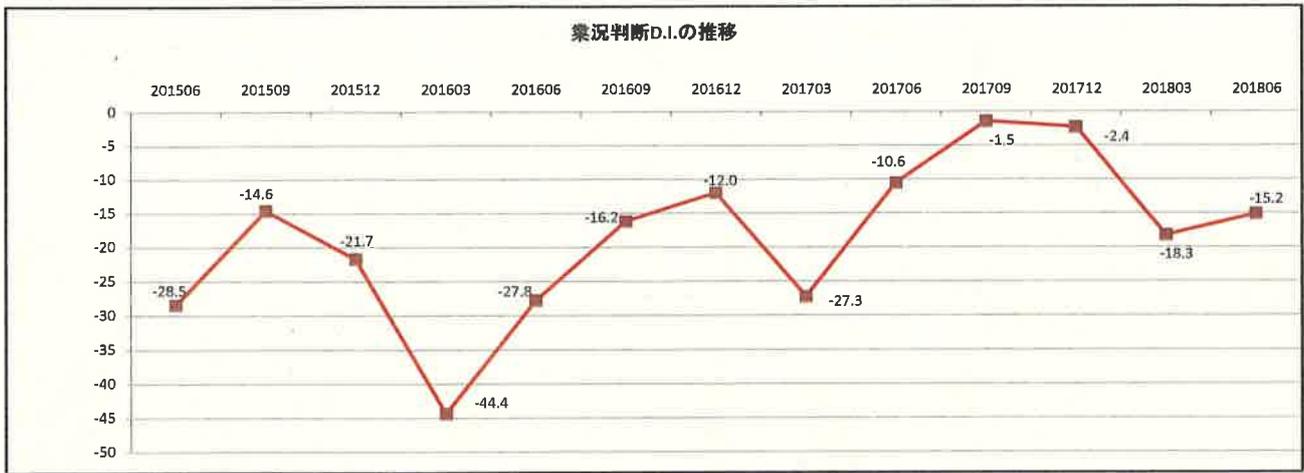
一方で、「支援制度を利用していない」との回答は38.2%となっています。



問 5	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	総計	全国平均
1. メインバンク	43.3%	25.0%	23.7%	19.5%	24.7%	23.5%	26.7%	33.2%
2. メインバンク以外の金融機関	18.3%	12.5%	6.8%	3.9%	10.6%	5.9%	9.6%	10.3%
3. 公的機関(区市町村・中小機構等)	33.3%	12.5%	6.8%	15.6%	14.1%	11.8%	16.5%	10.8%
4. マスメディア	3.3%	0.0%	1.7%	5.2%	0.0%	11.8%	2.8%	2.0%
5. 各種専門家	11.7%	4.2%	11.9%	7.8%	7.1%	11.8%	9.0%	6.7%
6. インターネット	10.0%	0.0%	8.5%	7.8%	7.1%	17.6%	8.1%	7.9%
7. 商工会議所・商工会	28.3%	20.8%	28.8%	28.6%	28.2%	23.5%	27.6%	19.8%
8. 知人・同業者等	5.0%	4.2%	10.2%	10.4%	7.1%	5.9%	7.8%	10.3%
9. その他	1.7%	0.0%	0.0%	1.3%	4.7%	0.0%	1.9%	2.4%
0. いずれの支援制度も利用していない	25.0%	58.3%	42.4%	39.0%	37.6%	41.2%	38.2%	42.6%

合計 / D.I.		項目	分析基準	201603	201606	201609	201612	201703	201706	201709	201712	201803	201806	201809	
総計	< 業況 > (実績)			-44.4	-27.8	-16.2	-12.0	-27.3	-10.6	-1.5	-2.4	-18.3	-15.2		
	< 業況 > (予想)			-36.6	-21.8	-19.3	-19.9	-31.4	-11.6	-9.3	-10.0	-25.6	-7.3	-6.5	
	< 売上額 >			-39.0	-7.3	-2.4	0.3	-21.6	8.7	4.2	5.2	-25.7	-3.4		
	< 売上額 > (前年同期比)			-25.7	-20.8	-15.3	-10.8	-6.9	-3.1	-2.7	-1.5	-10.7	-1.9		
	< 収益 >			-38.7	-15.9	-11.0	-7.1	-28.2	-3.1	0.6	-2.4	-29.1	-8.1		
	< 収益額 > (前年同期比)			-27.5	-22.6	-15.9	-14.2	-10.3	-9.0	-4.8	-4.8	-9.5	-15.6	-8.4	
	< 収益 > (予想)			-34.2	-0.3	-8.0	-12.2	-32.9	4.7	-4.7	-4.7	-11.5	-27.7	-0.3	2.5
	< 販売価格 >			-11.2	-8.0	-7.6	-4.3	-6.3	-0.6	1.8	0.9	0.9	-4.9	4.0	
	< 仕入れ価格 >			3.0	11.9	8.9	16.3	19.7	22.4	20.9	27.1	25.1	33.5		
	< 資金繰り > [楽 - 苦]			-26.9	-21.7	-17.7	-15.4	-19.7	-11.2	-13.9	-10.4	-13.8	-13.4		
	< 人手過不足 > [過剰 - 不足]			-16.6	-14.7	-16.2	-25.8	-20.7	-28.7	-32.1	-37.5	-30.0	-29.8		
	< 残業時間 >			-12.4	-6.7	-4.9	5.2	-7.2	-3.4	4.2	7.0	6.7	-0.3		
	< 借入難易度 > [易 - 難]			-3.9	-4.0	-0.6	-2.2	-1.9	-0.3	-3.0	3.0	0.0	1.9		
	< 設備稼働状況 >			-14.5	-13.1	-13.8	-16.9	-12.2	-15.2	-13.9	-14.9	-12.2	-16.8		
	< 設備投資割合 > (実績) [%]			25.7	24.5	25.1	27.7	25.4	29.2	27.9	28.4	27.2	27.6		
	< 設備投資割合 > (予定) [%]			25.2	29.9	26.0	22.0	24.6	22.3	26.4	23.0	23.5	26.3	26.4	
	製造業	< 業況 > (実績)			-45.2	-36.1	-26.2	-19.7	-19.4	-4.8	-8.2	9.8	-13.3	3.3	
		< 業況 > (予想)			-20.0	-29.0	-24.6	-27.9	-27.9	-14.5	-12.9	-13.1	-13.1	-6.7	-5.0
		< 売上額 >			-40.3	-19.7	-9.8	1.6	-9.7	3.2	-9.8	21.3	-18.3	-1.7	
		< 売上額 > (前年同期比)			-17.7	-19.7	-23.0	-19.7	-3.2	4.8	4.9	23.0	5.0	6.7	
< 収益 >				-33.9	-23.0	-16.4	-3.3	-19.4	-3.2	-19.7	14.8	-21.7	-3.3		
< 収益額 > (前年同期比)				-22.6	-21.3	-21.3	-19.7	1.6	4.8	11.5	19.7	-3.3	0.0		
< 収益 > (予想)				-25.0	3.2	-3.3	-1.6	-18.0	-11.3	-6.5	-16.4	-14.8	0.0	-13.3	
< 販売価格 >				-4.8	-11.5	3.3	1.6	3.2	0.0	-1.6	8.2	8.3	8.3		
< 仕入れ価格 >				4.8	4.9	8.2	19.7	25.8	32.3	19.7	44.3	38.3	38.3		
< 資金繰り > [楽 - 苦]				-37.1	-19.7	-23.0	-13.1	-19.4	-8.1	-26.2	-16.4	-6.7	-8.3		
< 人手過不足 > [過剰 - 不足]				-8.1	-3.3	-9.8	-23.0	-21.0	-35.5	-37.7	-44.3	-31.7	-31.7		
< 残業時間 >				-3.2	-3.3	-3.3	1.6	9.7	14.5	11.5	18.0	13.3	10.0		
< 借入難易度 > [易 - 難]				0.0	-1.6	-4.9	0.0	-1.6	-3.2	-4.9	4.9	1.7	1.7		
< 設備稼働状況 >				-21.0	-11.5	-16.4	-26.2	-21.0	-17.7	-23.0	-24.6	-30.0	-31.7		
< 設備投資割合 > (実績) [%]				37.1	31.1	37.7	31.1	27.4	45.2	36.1	31.1	36.7	30.0		
< 設備投資割合 > (予定) [%]				28.3	35.5	31.1	24.6	29.5	27.4	37.1	28.2	34.4	41.7	36.7	
卸売業		< 業況 > (実績)			-50.0	-31.8	-22.7	-4.5	-45.5	-30.4	-12.5	-20.8	-33.3	-4.2	
		< 業況 > (予想)			-56.0	-29.2	-31.8	-22.7	-31.8	-9.1	-26.1	-25.0	-45.8	-8.3	-25.0
		< 売上額 >			-37.5	-9.1	-18.2	-13.6	-22.7	0.0	4.2	4.2	-37.5	-4.2	
		< 売上額 > (前年同期比)			-50.0	-22.7	-36.4	13.6	4.5	-13.0	-33.3	-20.8	-37.5	0.0	
	< 収益 >			-33.3	-9.1	-22.7	-22.7	-36.4	-17.4	4.2	16.7	-33.3	0.0		
	< 収益額 > (前年同期比)			-41.7	-13.6	-40.9	-18.2	-4.5	-26.1	-29.2	0.0	-33.3	-4.2		
	< 収益 > (予想)			-60.0	-25.0	-22.7	-18.2	-36.4	27.3	-13.0	-8.3	-45.8	-12.5	-4.2	
	< 販売価格 >			0.0	0.0	-4.5	-4.5	4.5	13.0	4.2	0.0	8.3	16.7		
	< 仕入れ価格 >			16.7	18.2	13.6	27.3	13.6	26.1	12.5	25.0	33.3	41.7		
	< 資金繰り > [楽 - 苦]			-12.5	-18.2	-31.8	-9.1	-22.7	-8.7	-12.5	-12.5	-8.3	-4.2		
	< 人手過不足 > [過剰 - 不足]			-12.5	-13.6	-13.6	-22.7	0.0	-8.7	-4.2	-16.7	-33.3	-25.0		
	< 残業時間 >			-4.2	-9.1	9.1	22.7	-18.2	0.0	-8.3	8.3	0.0	-4.2		
	< 借入難易度 > [易 - 難]			-12.5	-22.7	-13.6	-9.1	0.0	0.0	-4.2	4.2	4.2	16.7		
	< 設備稼働状況 >			-16.7	-13.6	-13.6	-18.2	0.0	0.0	-12.5	-12.5	-12.5	-12.5		
	< 設備投資割合 > (実績) [%]			16.7	18.2	22.7	18.2	27.3	21.7	12.5	16.7	20.8	16.7		
	< 設備投資割合 > (予定) [%]			20.0	37.5	31.8	18.2	22.7	22.7	17.4	16.7	8.3	12.5	29.2	
	小売業	< 業況 > (実績)			-57.1	-29.7	-32.8	-36.5	-40.4	-23.2	-25.8	-24.6	-44.3	-40.7	
		< 業況 > (予想)			-37.3	-25.4	-31.3	-39.1	-47.6	-33.3	-28.6	-25.8	-39.3	-21.3	-23.7
		< 売上額 >			-47.6	-9.4	-17.2	-19.0	-26.3	3.6	-8.1	-14.8	-44.3	-11.9	
		< 売上額 > (前年同期比)			-44.4	-35.9	-35.9	-38.1	-19.3	-14.3	-9.7	-14.8	-34.4	-22.0	
< 収益 >				-47.6	-17.2	-25.0	-30.2	-38.6	-10.7	-12.9	-24.6	-45.9	-11.9		
< 収益額 > (前年同期比)				-36.5	-31.3	-26.6	-36.5	-33.3	-25.0	-9.7	-18.0	-39.3	-23.7		
< 収益 > (予想)				-32.8	-6.3	-31.3	-25.0	-44.4	-8.8	-12.5	-16.1	-34.4	-3.3	-10.2	
< 販売価格 >				-11.1	-3.1	-6.3	-3.2	-7.0	7.1	1.6	13.1	-16.4	10.2		
< 仕入れ価格 >				-6.3	10.9	4.7	14.3	10.5	17.9	21.0	21.3	14.8	30.5		
< 資金繰り > [楽 - 苦]				-34.9	-25.0	-29.7	-38.1	-26.3	-16.1	-25.8	-21.3	-31.1	-32.2		
< 人手過不足 > [過剰 - 不足]				-15.9	-10.9	-1.6	-3.2	-8.8	-16.1	-21.0	-26.2	-9.8	-20.3		
< 残業時間 >				-9.5	1.6	-1.6	3.2	-8.8	-1.8	0.0	0.0	-6.6	-3.4		
< 借入難易度 > [易 - 難]				-1.6	-12.5	-6.3	-7.9	-10.5	0.0	-4.8	-3.3	-4.9	1.7		
< 設備稼働状況 >				-6.3	-7.8	-14.1	-15.9	-7.0	-8.9	-4.8	-6.6	-3.3	-13.6		
< 設備投資割合 > (実績) [%]				17.5	17.2	14.1	17.5	10.5	17.9	17.7	9.8	13.1	22.0		
< 設備投資割合 > (予定) [%]				14.9	20.6	21.9	12.5	17.5	12.3	14.3	11.3	9.8	16.4	20.3	
サービス業		< 業況 > (実績)			-32.9	-17.3	0.0	-2.5	-19.2	-11.3	2.5	-2.5	-11.3	-18.2	
		< 業況 > (予想)			-24.4	-17.1	-12.3	-5.1	-21.5	-10.3	-8.8	-6.3	-21.3	-3.8	-10.4
		< 売上額 >			-20.7	2.5	19.0	13.9	-8.4	6.3	10.0	7.5	-16.3	-5.2	
		< 売上額 > (前年同期比)			-12.2	-12.3	15.2	8.9	-9.0	-2.5	-5.0	-3.8	-16.3	-3.9	
	< 収益 >			-29.3	-6.2	12.7	12.7	-17.9	-5.0	5.0	-5.0	-23.8	-9.1		
	< 収益額 > (前年同期比)			-19.5	-14.8	7.6	7.6	-9.0	-10.0	-8.8	-23.8	-22.5	-13.0		
	< 収益 > (予想)			-26.8	2.4	-2.5	-2.5	-26.6	10.3	-1.3	-7.5	-20.0	-5.0	6.5	
	< 料金価格 >			-6.1	-3.7	3.8	0.0	1.3	1.3	5.0	-6.3	2.5	2.6		
	< 仕入れ価格 >			8.5	16.0	17.7	31.6	35.9	25.0	31.3	32.5	38.8	35.1		
	< 資金繰り > [楽 - 苦]			-19.5	-23.5	-10.1	-11.4	-14.1	-15.0	-6.3	-7.5	-15.0	-13.0		
	< 人手過不足 > [過剰 - 不足]			-24.4	-32.1	-29.1	-32.9	-29.5	-31.3	-30.0	-40.0	-36.3	-35.1		
	< 残業時間 >			-17.1	-9.9	-7.6	3.8	-12.8	-8.8	0.0	1.3	6.3	-1.3		
	< 借入難易度 > [易 - 難]			-6.1	1.2	1.3	-5.1	-1.3	-6.3	-2.5	5.0	-1.3	-1.3		
	< 設備稼働状況 >			-20.7	-25.9	-22.8	-24.1	-20.5	-30.0	-21.3	-23.8	-16.3	-24.7		
	< 設備投資割合 > (実績) [%]			34.1	32.1	31.6	34.2	32.1	35.0	36.3	36.3	35.0	33.8		
	< 設備投資割合 > (予定) [%]			30.5	37.8	32.1	30.4	29.1	28.2	31.3	31.3	25.0	25.0	26.0	

合計 / D.I.														
業種区分	項目	分析基準	201603	201606	201609	201612	201703	201706	201709	201712	201803	201806	201809	
建設業	<業況>(実績)		-48.8	-29.3	-9.5	6.0	-34.1	-6.0	17.6	11.8	-4.7	-15.3		
	<業況>(予想)		-51.3	-23.2	-6.1	-16.7	-34.9	-3.7	2.4	0.0	-23.5	-1.2	11.8	
	<売上額>		-56.1	-4.9	-1.2	9.6	-43.9	12.0	15.3	10.6	-22.4	-2.4		
	<売上額>(前年同期比)		-30.5	-15.9	-19.0	-3.6	-7.3	-3.6	5.9	-2.4	8.2	4.7		
	<収益>		-54.9	-20.7	-14.3	1.2	-40.2	-1.2	17.6	2.4	-25.9	-10.6		
	<収益額>(前年同期比)		-32.9	-24.4	-21.4	-8.4	-9.8	-7.2	-4.7	-12.9	3.5	-2.4		
	<収益>(予想)		-39.7	-1.2	4.9	-16.7	-43.4	9.8	-2.4	-7.1	-32.9	2.4	17.6	
	<請負価格>		-20.7	-9.8	-20.2	-8.4	-20.7	-9.6	7.1	-3.5	-12.9	-2.4		
	<仕入れ価格>		8.5	17.1	9.5	6.0	14.6	21.7	24.7	23.5	17.6	36.5		
	<資金繰り>【楽 - 苦】		-29.3	-20.7	-11.9	-8.4	-24.4	-8.4	-9.4	-2.4	-7.1	-10.6		
	<人手過不足>【過剰 - 不足】		-19.5	-11.0	-22.6	-41.0	-26.8	-31.3	-49.4	-48.2	-38.8	-34.1		
	<残業時間>		-23.2	-12.2	-9.5	12.0	-9.8	-12.0	11.8	10.6	17.6	-4.7		
	<借入難易度>【易 - 難】		-6.1	-1.2	8.3	2.4	2.4	4.8	0.0	4.7	3.5	-2.4		
	<設備稼働状況>		-12.2	-8.5	-6.0	-7.2	-7.3	-10.8	-10.6	-9.4	-4.7	-5.9		
	<設備投資割合>(実績)【%】		23.2	24.4	23.8	34.9	32.9	27.7	31.8	41.2	30.6	32.9		
	<設備投資割合>(予定)【%】		30.8	29.3	23.2	25.0	27.7	24.4	30.1	28.2	32.9	32.9	28.2	
	不動産業	<業況>(実績)		-22.2	-29.4	-17.6	-35.3	5.6	16.7	11.1	-11.8	-23.5	5.9	
		<業況>(予想)		-70.0	11.1	-35.3	0.0	-11.8	22.2	27.8	11.1	-23.5	-5.9	0.0
		<売上額>		-11.1	-11.8	-5.9	-23.5	-11.1	50.0	16.7	-17.6	-29.4	23.5	
		<売上額>(前年同期比)		5.6	-29.4	-5.9	-35.3	16.7	16.7	5.6	0.0	-11.8	11.8	
<収益>			0.0	-17.6	-17.6	-47.1	-5.6	38.9	11.1	-23.5	-29.4	-5.9		
<収益額>(前年同期比)			-5.6	-35.3	-5.9	-35.3	5.6	11.1	5.6	-11.8	-11.8	0.0		
<収益>(予想)			-50.0	33.3	-5.9	-17.6	-17.6	27.8	11.1	-22.2	-35.3	35.3	17.6	
<販売価格>			-27.8	-35.3	-47.1	-29.4	-16.7	-11.1	-27.8	-11.8	-23.5	-11.8		
<仕入れ価格>			-38.9	-11.8	-23.5	-23.5	-11.1	-11.1	-27.8	-17.6	-23.5	-5.9		
<資金繰り>【楽 - 苦】			-5.6	-17.6	0.0	0.0	0.0	-5.6	11.1	0.0	-11.8	5.9		
<人手過不足>【過剰 - 不足】			-5.6	-5.9	-5.9	-17.6	-16.7	-11.1	-16.7	-17.6	-17.6	-17.6		
<残業時間>			5.6	-5.9	-5.9	-23.5	-11.1	-11.1	-5.6	0.0	-11.8	5.9		
<借入難易度>【易 - 難】			5.6	5.9	0.0	11.8	0.0	11.1	-5.6	0.0	-5.9	17.6		
<設備稼働状況>			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
<設備投資割合>(実績)【%】			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
<設備投資割合>(予定)【%】			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	



平成30年8月9日
新潟県信用保証協会 上越支店

《 上 越 市 経 済 懇 談 会 》
(信用保証の状況と動向について)

(資料)

- 保証業務計画と実績(平成26年度～平成29年度)
- 保証承諾・保証債務残高・代位弁済の推移(平成30年1月～6月)
- 市町村訪問資料(上越市)
業種別「保証承諾・債務残高・代位弁済(平成30年6月末)」
- 信用保証協会の新たな取り組み(信用補完制度の見直しについて)
 - ・中小企業者のライフステージに合わせた保証の取組み
 - ・全国規模の経済危機等への備え
 - ・金融機関と連携した経営改善・生産性向上

保証業務計画と実績

(単位:百万円、%)

年度 項目	実 績												平 成 29 年 度 計 画 と 実 績							
	平 成 26 年 度				平 成 27 年 度				平 成 28 年 度				計画額	3 月 末 現 在						
	件数	金額	前 年 比		件数	金額	前 年 比		件数	金額	前 年 比			件数	金額	前年同期比		全国前年同期比		計画額 達成率
			件数	金額			件数	金額			件数	金額				件数	金額	件数	金額	
A 保証承継	16,040	176,874	101.7	102.2	14,338	156,865	89.4	88.7	14,930	155,823	104.1	99.3	150,000	13,787	132,452	92.3	85.0	95.4	94.3	88.3
B 保証債務残高	65,612	532,289	96.7	91.1	62,094	491,418	94.6	92.3	58,016	441,783	93.4	89.9	400,000	52,727	391,193	90.9	88.5	94.3	93.1	97.8
C 保証債務平均残高	66,633	554,945	97.0	92.2	63,891	507,498	95.9	91.5	59,830	464,133	93.6	91.5	422,000	55,625	415,018	93.0	89.4	94.2	94.8	98.3
D 期限経過債務残高	261	2,316	84.5	67.6	236	2,052	90.4	88.6	217	2,595	91.9	126.5	—	297	2,308	136.9	88.9	—	—	—
D/B	—	0.44	—	74.6	—	0.42	—	95.5	—	0.59	—	140.5	—	—	0.59	—	100.0	—	—	—
E 所定期限経過債務残高	32	341	91.4	87.8	21	145	65.6	42.6	33	422	157.1	291.1	—	22	115	66.7	27.2	—	—	—
E/B	—	0.06	—	85.7	—	0.03	—	50.0	—	0.10	—	333.3	—	—	0.03	—	30.0	—	—	—
F 代位弁済	889	8,490	93.4	94.4	830	6,816	93.4	80.3	802	6,678	96.6	98.0	8,500	861	7,691	107.4	115.2	89.0	88.4	90.5
(代弁率(F/C))	—	1.53	—	102.7	—	1.34	—	87.6	—	1.44	—	107.5	2.01	—	1.85	—	128.5	—	※1.54	92.2
G 代位弁済被請求残高	58	486	96.7	120.8	47	365	81.0	75.2	87	699	185.1	191.3	—	54	406	62.1	58.1	102.7	105.6	—
H 実際回収	178	2,446	101.1	87.5	172	2,374	96.6	97.1	185	2,010	107.6	84.7	2,100	187	2,392	101.1	119.0	—	92.2	113.9
	—	(2,334)	—	(88.7)	—	(2,207)	—	(94.5)	—	(1,919)	—	(86.9)	—	—	(2,230)	—	(116.2)	—	(91.7)	—
実際回収率	—	2.00	—	86.2	—	1.93	—	96.5	—	1.59	—	82.4	1.60	—	1.83	—	115.1	—	※1.26	114.6
(実際回収 期首実際求償÷期中代弁)	—	(1.91)	—	(87.2)	—	(1.79)	—	(93.7)	—	(1.52)	—	(84.9)	—	—	(1.71)	—	(112.5)	—	※(1.18)	—

(注)C欄の平残は当該年度の保証債務残高の和を経過月数で除したものである。

D欄の期限経過債務とは、最終弁済期日経過及び期限の利益喪失分で、代位弁済請求受付及び請求見込分を含む。

(カード・当貸等条件変更実行済分で月末迄に変更実行報告書の未着分を含む。)

E欄の所定期限経過債務とは、D欄の期限経過債務のうち期限を90日経過した分である。

H欄の()書の数値は元金分であり、件数については、求償権の元金完済口数である。

※平成29年度計画と実績の全国前年同期比のうち、代弁率及び回収率については実数である。

新潟県信用保証協会

新潟県信用保証協会
保証承諾・保証債務残高・代位弁済の推移

保証承諾

(単位:百万円)

	平成30年1月	平成30年2月	平成30年3月	平成30年4月	平成30年5月	平成30年6月
全体	7,786	10,276	13,656	7,648	10,435	11,905
上越支店	738	878	1,277	411	1,016	999
上越市	562	688	1,003	280	551	673

保証債務残高

	平成30年1月	平成30年2月	平成30年3月	平成30年4月	平成30年5月	平成30年6月
全体	399,931	395,314	391,193	386,974	382,398	377,824
上越支店	45,068	44,514	43,563	42,921	42,377	41,686
上越市	32,684	32,293	31,495	30,979	30,576	30,005

代位弁済

	平成30年1月	平成30年2月	平成30年3月	平成30年4月	平成30年5月	平成30年6月
全体	701	699	1,047	257	255	666
上越支店	101	144	190	2	28	49
上越市	0	144	190	2	28	44

※百万円未満四捨五入

市 町 村 訪 問 資 料

30年07月02日作成

30 年 06 月末現在

(単位：千円、%)

市町村名： 上越市

業 種	保 証 承 諾				債 務 残 高				代 位 弁 済			
	件 数	金 額	前年比	構成比	件 数	金 額	前年比	構成比	件 数	金 額	前年比	構成比
食料品	3	11,470	7.1	0.8	86	966,653	87.6	3.2	3	30,733		41.3
繊維品					10	39,152	85.6	0.1				
木材・木製品	1	10,000	20.8	0.7	9	99,107	73.2	0.3				
家具建具	2	7,000	80.5	0.5	36	151,035	79.5	0.5				
紙					11	124,567	75.2	0.4				
印刷製本					23	213,306	91.7	0.7				
化学					2	23,313	84.3	0.1				
ゴム・プラスチック					17	183,225	90.4	0.6				
窯業					15	91,664	70.6	0.3				
機械	1	7,000	3.1	0.5	56	801,646	67.0	2.7				
電気機器	2	80,000	133.3	5.3	23	676,549	90.1	2.3				
車両					6	104,027	95.1	0.3				
船舶					2	2,550	78.4	0.0				
金属	3	15,000	60.0	1.0	109	1,135,493	76.3	3.8				
その他	4	23,000	95.8	1.5	155	784,815	89.2	2.6	3	31,974	3,914.1	42.9
(小計)	16	153,470	24.8	10.2	560	5,397,104	81.0	18.0	6	62,707	104.0	84.2
農林漁業					6	77,921	79.7	0.3				
鉱業					10	102,724	80.8	0.3				
建設業	80	530,930	66.3	35.3	1,198	8,684,239	83.3	28.9				
卸売業	21	275,230	64.1	18.3	311	3,866,351	81.6	12.9				
小売業	32	189,700	101.9	12.6	535	3,351,077	88.1	11.2	3	11,748	21.2	15.8
飲食店	13	58,649	114.1	3.9	219	1,080,502	87.7	3.6				
運送倉庫業	2	32,000	54.1	2.1	109	1,096,072	86.2	3.7				
サービス業	29	249,425	103.3	16.6	624	5,682,603	85.1	18.9				
不動産業	4	14,010	29.8	0.9	47	536,144	77.7	1.8				
その他産業					9	130,229	76.1	0.4				
(小計)	181	1,349,944	73.7	89.8	3,068	24,607,863	84.2	82.0	3	11,748	12.8	15.8
合 計	197	1,503,414	61.3	100.0	3,628	30,004,966	83.6	100.0	9	74,455	49.0	100.0
過去の 実績	27年度	1,213	14,877,893	-----	4,450	40,470,968	-----	-----	62	570,765	-----	-----
	28年度	1,140	12,503,523	84.0	4,132	36,661,802	90.6	-----	61	533,802	93.5	-----
	29年度	960	10,260,879	82.1	3,749	31,495,330	85.9	-----	71	809,967	151.7	-----
商工貯蓄												
商工貯蓄 (小口)												
アローズ	0	0			1	5,070	96.8	0.0	0	0		
スクラム												

【訪問記録】

訪問日

年

月

日

信用補完制度の見直しについて

I. ライフステージに応じたより一層のきめ細やかな保証の提供を行います。

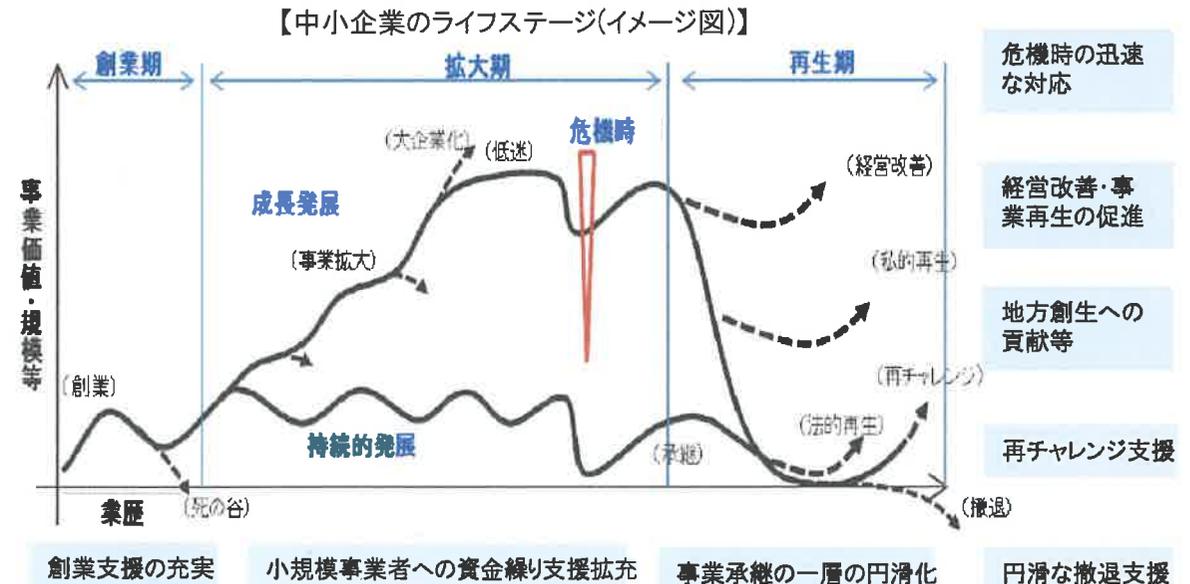
創業関連保証の拡充	創業チャレンジ、創業後の事業継続を後押ししていくため、創業関連保証の限度額を1,000万円から2,000万円に拡充します。
小規模事業者への支援拡充	小規模事業者向けの100%保証(小口零細企業保証、特別小口保証)の限度額が1,250万円から2,000万円まで拡充されます。
特定経営承継関連保証の創設	事業承継を一層促進するため、後継者個人を対象にした取扱いが可能になります。 (認定を受けた法人の代表者が承継時に必要な株式取得資金等)
経営改善サポート保証の拡充	第二会社方式により事業承継を行う新設会社も利用可能となるよう運用が改正されました。
危機関連保証の創設	大規模な経済危機、災害等の事態に際し、新たなセーフティネットとして、「危機関連保証」(100%保証)を創設しました。 *セーフティネット保証5号(不況業種)は80%保証になります。
円滑な撤退支援	自主的に廃業を決断する場合に必要な資金(つなぎ資金)の調達が円滑に行えるよう「自主廃業支援保証」を創設しました。

II. 信用保証協会と金融機関の連携

・金融WGでは、適切なりスク分担により、中小企業の経営改善・生産性向上をより一層進めていくことが重要とされました。

・当協会では、従来からの事前相談制により、これまでと同様に金融機関と十分な対話を行い中小企業支援を進めていきます。

・保証審査や中小企業支援のスタンスは従来と変わることはありません。



中小企業とともに歩む身近なパートナー



新潟県信用保証協会



平成30年4月から
信用保証協会は
新たな保証制度に
取り組みます。

信用保証協会の 新たな取り組みについて

中小企業・小規模事業者等の
様々な場面に合わせた
保証取り組み



中小企業者等がライフステージの
様々な場面で必要となる資金需要に
きめ細かく対応するために創業や
事業承継等に係る保証制度の拡充、
創設を行います。

全国規模の
経済危機等への備え



リーマンショックや東日本大震災
等のような全国規模の危機時に、
通常の一般保証とは「別枠」で、迅速
な対応が可能な責任共有対象外の
危機関連保証制度を創設します。

保証協会と金融機関の連携を通じた
中小企業・小規模事業者等の
経営改善・生産性向上



信用保証協会は金融機関と連携して
中小企業者等への経営支援を強化
するなど、中小企業者等の経営改善・
生産性向上へのサポートを一層進め
ます。

具体的な保証制度は裏面へ ➡

【創設する主な保証制度】

	危機関連保証	特定経営承継関連保証	自主廃業支援保証
対象者	大規模な経済危機、災害等の事象による著しい信用収縮が生じ、事業所の所在地を管轄する市町村長の認定を受けた中小企業者等	事業承継に伴い、事業活動の継続に支障が生じているとして、経済産業大臣(県知事)の認定を受けた中小企業者等の代表者個人	事業譲渡や経営者交代等による事業継続が見込めず、自ら廃業を選択するもので、実質的に債務超過でないなど一定の要件を満たす中小企業者等
保証限度額	2億8,000万円 (別枠)	2億8,000万円 (一般保証と合算)	3,000万円
保証期間	10年以内 (据置2年以内)	運転10年以内 (据置1年以内) 設備15年以内 (据置1年以内)	1年以内 (終期は解散予定日より前)
責任共有	対象外	対象	対象
保証料率	年0.80%	年0.35%~1.80% (0.10%割引後) (割引期間:平成30年4月1日~平成31年3月31日)	年0.45%~1.90%

【改正する主な保証制度】

	創業関連保証	小口零細企業保証	経営安定関連保証 (5号認定分)
対象者	①創業者(創業計画段階にあり、今後創業する者) ②創業後5年未満の者 ③中小企業者等であって、新たに会社を設立(分社化)する者等	小規模事業者	全国的に業況が悪化している業種に属する中小企業者等のうち、市町村長の認定を受けた者等
保証限度額	1,000万円→ 2,000万円	1,250万円→ 2,000万円	2億8,000万円 (別枠)
保証期間	10年以内 (据置1年以内)	10年以内 (据置1年以内)	原則として10年以内
責任共有	対象外	対象外	対象外 → 対象
保証料率	年0.60% (0.20%割引後) (割引期間:平成30年4月1日~平成31年3月31日)	年0.30%~2.00% (0.20%割引後) (割引期間:平成30年4月1日~平成31年3月31日)	年0.65%

※審査の結果、ご希望に添えない場合もございます。

※「支援創業関連保証」「経営者保証ガイドライン対応保証」は廃止となります。

問い合わせ先

■本店営業部 保証第一課 ☎025-267-1313 保証第二課 ☎025-267-1315
 ■長岡支店 保証第一課、保証第二課 ☎0258-35-5714
 ■県央支店 保証課 ☎0256-33-6661

■上越支店 ☎025-523-7225
 ■佐渡支店 ☎0259-57-2011

詳しくはホームページでもご覧いただけます。

新潟 信用保証

検索